

令和 6 年度

事業報告書

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会

目 次

I	はじめに	1
II	令和6年度事業報告【概要】	2
III	令和6年度事業報告	
	ミッション1 気づき・共感を育む	
	福祉の心を育む「ふれあいのまちKOBÉ・愛の輪運動」の推進	7
	ボランティア活動の推進	8
	福祉人材育成のための各種研修事業の実施	10
	情報発信の充実	17
	ミッション2 暮らしに寄り添う	
	地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援	19
	児童就学・次世代育成支援	22
	権利擁護に関する取り組み	24
	介護保険サービス等の提供	30
	認知症支援事業	34
	障害者地域生活支援拠点の運営	36
	障がい者のスポーツ・文化の振興	42
	点字図書館の運営	51
	障害者福祉基金を活用した助成事業	56
	神戸ふれあい工房の運営	57
	こども・子育て支援	58
	地域福祉施設の管理運営	74
	神戸市介護サービス協会事務局の受託	74
	ミッション3 つながり、支え合う	
	地域福祉活動の推進強化	76
	神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営	79
	福祉団体、NPOやボランティアグループへの助成	80
	災害支援の取り組み	81
	民間社会福祉施設の振興	81
	多様な福祉活動参加の推進	82
	活動を支える体制の強化	84

この報告書では、法令や社会福祉制度などで使用されている固有名詞を除き、「障がい」の表記には、ひらがなを用いています。

I はじめに

本会では、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）の5か年計画として、「“こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画2025」を策定し、以下のとおり、ビジョンと3つのミッションを定めました。

なお、本会は、2025（令和7）年4月1日付で市内9区の区社協との間で、本会を存続法人とする吸収合併を行いました。法人合併後は、区社協の法人運營業務等を市社協に集約して業務を効率化することにより、区社協の体制を強化し、市・区社協が一体となって地域福祉活動をさらに推進していきます。

＜合併後の市社協の体制＞

市社協の職員数の変化

合併前（令和7年3月31日時点） 779名

合併後（令和7年4月1日時点） 1,122名（市社協969名、区社協配置153名）

ビジョン “こうべ”の社協が実現したい未来の姿

拡げる理解 拡がる参加 お互いさまの地域づくり

地域の皆さんの一人ひとりが主役となって、様々な立場の人たちが手を取り合って進める誰もが幸せを感じることができる地域づくり

ミッション “こうべ”の社協が行うこと

気づき・共感を育む

ともに支え合う社会にするためには、くらしの困りごとを抱えている誰かの存在に気付くこと、その方の悩みに寄り添う気持ちを抱くこと、誰もが持っている優しさや思いやり、助け合いの気持ちを育み拡げることが大切です。

“こうべ”の社協は、くらしの困りごとを解決するため、地域の皆さんの助け合いの気持ちを後押しし、福祉の心の輪を拡げます。

くらしに寄り添う

障がいがあっても、高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい。

そんな想いを形にできるように、一人ひとりの悩みを受け止め、「くらしを守り、自分らしく生きる」ための働きかけを、ご本人に寄り添いながら進めます。

生きがいややりがい、地域とのつながりづくりを意識しながら福祉の専門職や地域の皆さんと一緒に、一人ひとりのくらしを支えていきます。

つながり、支え合う

ともに支え合う社会にするために、自分のまわりに少しだけ目を向け、心を寄せ、その人らしさを認め合える地域を目指します。

人それぞれの得意と苦手をうまく補い合いながら、互いに支え合い、将来の自分を含む全ての人が幸せになる取り組みを進めていきます。

令和6年度は、この“こうべ”の社会福祉協議会 地域福祉推進計画2025の趣旨に基づき、ミッションの達成にむけてそれぞれの関連する事業に取り組みしました。

Ⅱ 令和 6 年度事業報告【概要】

ミッション1 気づき・共感を育む

福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

地域福祉への参画を促進するため福祉教育・啓発活動に取り組んだ。

「愛の輪ポスター」の作品募集では、子どもたちが福祉の心を表現したポスターを制作する過程で日々の暮らしの中にある福祉に思いを巡らせ、福祉を身近なものと気付くことをねらいとして応募を募った。

障がい者に対する理解を深める取組みである「障がいサポーター養成講座」では、出前形式で当事者による講話や疑似体験による学びの機会を提供した。

福祉施設での「福祉体験学習事業（ワークキャンプ）」は、350 施設の協力のもと 1,031 名の中高生が福祉体験学習に参加した。市内の福祉施設を対象としたアンケートを実施したところ中高生の頃ワークキャンプに参加し現在福祉の職場で働いている方が全体の 6.2%いらっしゃる事がわかり、仕事を選ぶきっかけにもなっていることがうかがえた。

福祉人材育成のための各種研修事業の実施

市民の福祉に関する理解と参加を促進し、ボランティアから社会福祉事業者まで、幅広い福祉人材の育成と資質の向上を図るために、市民福祉大学の運営を行った。

福祉ライブラリーでは書架の耐震強化を行うとともに家具の入れ替え等のリニューアルを行った。

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

情報発信の充実

本会ホームページについて大規模改修を実施しスマートフォンで見やすいようにデザインを変更し、行事、イベントなど本会事業の最新情報を発信した。

ミッション2 暮らしに寄り添う

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

〈地域福祉ネットワーク事業〉

課題が複雑化し、現行制度だけでは解決が難しい制度の狭間と言われる課題に市・区社協一丸となり取り組んだ。

中でも、令和 6 年度より実績管理アプリ（Kintone で作成）の運用を開始し、相談支援の情報を一元管理し相談支援体制の強化と統計データ分析が容易になるよう取り組んだ。

また、生活福祉資金での相談を入口に、金銭課題の背景にある本質的な課題解決への取り組みを強化した。

個別支援を積み重ねる中で得た課題を、地域を巻き込みながら課題解決のための新たな仕組みづくりにも引き続き取り組んでいる。その取り組みの一つとして、孤独・孤立や就労の課題を抱えた方などを対象とした生きがいや、やりがいづくりの場として『居場所』活動が各区の特色を活かして全市で展開されている。

〈生活福祉資金貸付事業〉

生活に不安を抱えた低所得、障がい者世帯に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」では、教育支援資金をはじめとする貸付相談に対応した。

令和6年度より高等学校進学時の教育支援資金の貸付決定者に対し図書カードNEXTを配布し参考書等の購入を支援するほか進学後の学生生活上発生する相談につなげた。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収となった世帯を対象とした「新型コロナウイルス特例貸付」においては、生活困窮の状態が続く等の理由で返済が困難な借受世帯に対し、償還や生活相談等に関する支援を行った。中でも、令和6年12月末を持って、償還期限となる借受世帯を対象にダイレクトメール（対象世帯数8,245世帯）を送付し各区社協での相談支援につなげた。

加えて、実施主体である県社会福祉協議会との連絡調整を担い、区社協に対して情報提供や課題の集約、県社協との調整や要望を行った。

〈“コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業〉

「就活応援プロジェクト」と題し、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、離職を余儀なくされ、再就職や転職を目指す生活困窮者や、ひとり親世帯等に相談窓口を通じて就職活動に必要な衣類（スーツやカバン等）の貸し出しを外部団体と連携し行った。

権利擁護に関する取り組み

〈安心サポートセンター〉

認知症等高齢者や知的・精神障がい者の権利侵害や財産管理等に関する権利擁護相談や日常生活自立支援事業（福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理支援）を実施した。

日常生活自立支援事業については、新型コロナの影響により契約数が一時減少したものの、以降増加し続け、今年度末契約件数は過去10年の最多と並ぶ数となった。今後も増加が見込まれるため、オンライン入出金機を導入して現金出納業務の効率化・適正化を図った。

また、成年後見制度への移行促進、出張説明や地域ケア会議、関係団体主催の研修会等を通じた事業周知に取り組んだ。

〈成年後見支援センター〉

権利擁護支援のための地域連携ネットワークの中核を担う機関（中核機関）として、引き続き4つの機能（①広報・啓発機能、②相談機能、③制度の利用促進機能、④後見人支援機能）の充実を図った。

令和6年度は、④後見人支援として、親族後見人への財産管理や身上保護の悩み等の相談支援を周知するため新たにチラシを作成、家庭裁判所および関係機関を通じて配布した。

また、国が進める第2期成年後見制度利用促進基本計画に基づいて、神戸市権利擁護地域連携ネットワーク協議会を立ち上げ、成年後見制度の利用促進に関する相談援助現場での課題等を協議した。

介護保険サービス等の提供

北在宅福祉センター、長田在宅福祉センター、須磨在宅福祉センター、西在宅福祉センターにおいて居宅介護支援事業、地域包括支援事業を実施した。また、長田在宅福祉センターにおいて通所介護事業、西在宅福祉センターにおいて認知症対応型通所介護事業を実施した。

認知症支援事業

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月1回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を実施した。本人・家族の自己実現、情報交換、レクリエーション、勉強会を目的に開催した。令和6年度はのべ202名の参加があった。

障害者地域生活支援拠点の運営

障がい者等やその家族が、安心して生活しつづけるための支援拠点となる「障害者地域生活拠点」を運営し、介護者が病気等で急に不在となった障がい者を短期入所に緊急で受け入れるなどの役割を果たした。

7年度の公募に向けて持続可能な運営体制について、協議・検討を行った。

また、拠点機能のさらなる充実と強化を図ることを目的として、民間事業所との連携の在り方について検討するために、神戸市と連携し、「多機能拠点整備型」+「面的整備型」のモデル実施の整備と参加を行った。

障がい者のスポーツ・文化の振興

障がい者の機能回復と健康の増進を図り、社会的自立と社会参加を促進するため、関係団体や企業の協力・支援のもと、各種障がい者スポーツ大会を開催した。また、広報誌やホームページ、パネル展示などによる積極的な情報発信をおこない、障がいへの理解を広げることにも努めた。

令和6年5月に神戸市で開催された世界パラ陸上競技選手権大会では、シルバースポンサーとして大会を支援し、幅広く周知活動をおこない、大会の機運醸成を図った。

また、文部科学省スポーツ庁のモデル事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」に参画し、特別支援学校生徒を対象に放課後スポーツ活動事業を実施した。

点字図書館の運営

視覚障害者情報提供施設として、視覚障がい者の生活の自立と社会参加の向上を図り、生活や文化の質が豊かになるように幅広く情報提供を行った。

令和6年度は、①点字図書・録音図書の貸出・閲覧をはじめ、②中途失明者のための点字教室の開催、③利用者からの点訳・音訳依頼等のプライベートサービス、④読み書き・対面朗読サービス、⑤点字・音声版「広報紙 KOBE」と音声版「市会だより」の発行、⑥福祉機器展の開催など、視覚障がい者の情報入手環境の向上に努めた。

また、読書バリアフリー法に基づき、読書が困難な障がい者が安心して自立した生活を送れるよう、情報サービスの充実を図ったほか、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、中央図書館との連携事業を実施するとともに連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

こども・子育て支援

〈こべっこランド〉

神戸っ子すこやかプラン2029に基づき、神戸市唯一の大型児童センターとして、神戸ならではの子育てが楽しめる環境づくりを目的に、こどもが安全に思う存分遊ぶことができるあそび場の整備や健全育成事業・発達支援事業・啓発連携事業を進めるとともに、子どもに寄

り添い支える人材の育成・支援として、市内 120 館の児童館支援に取り組んだ。

令和 6 年度はこべっこランドの特性を活かした事業として、幅広い世代の利用の促進、地域団体・企業・大学との連携、共同事業体のミズノスポーツサービス株式会社と合同で実施するスポーツ体験教室の充実等を行った。

〈児童館〉

令和 6 年度は北区・須磨区の児童館指定管理者公募年度となり、北区 5 館、須磨区 1 館の 6 館のみ更新とし、残り北区 3 館、須磨区 6 館の新たな事業者への移管を行った。

市・区社協の法人合併に伴い、東灘・北・長田・須磨・垂水・西（6 区）において、区社協で雇用していた放課後児童支援員を、令和 7 年 4 月 1 日付での市社協への雇用替えを行った。

また、児童館における各種事務の集約化のため、新たなシステムの導入や手順の見直しなど、事務の効率化を図った。

ミッション3 つながり、支え合う

地域福祉活動の推進強化

区社協との連携として「地域福祉推進基金」を活用し、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業の助成を行った。

合併後“あらたなこうべの社協”として、市・区社会福祉協議会が今後より一層、地域福祉活動や専門相談機関、行政施策等と重層的な支援体制を構築し、新たな地域福祉課題に対応していくネットワーク構築を進めていくため、区社協役員協議会を開催した。区社協役員協議会では、『包括的な支援体制の構築に向けて』をテーマとした基調講演を実施し、地域の新たな生活課題についての共有を行った。

神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

神戸市民生委員児童委員協議会事務局として、区民児協との連絡調整や資質向上のための研修会等の開催や共済事業などに関する事務を担った。

若い民生委員のなり手確保につなげるため、地区会長等に新たに配付したタブレット端末を活用し、民生委員・児童委員活動の DX を進め、情報連携、業務の効率化、活動しやすい環境づくりを支援した。

災害支援の取り組み

令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震においては、下記対応・支援を実施した。

- ①被災者への令和 6 年能登半島地震災害救援募金を実施
- ②災害ボランティア希望者、支援団体への相談対応、情報提供を実施
- ③被災社協が運営する災害ボランティアセンターへの職員派遣（のべ15人）
- ④災害ボランティアバスの運行

活動先：七尾市、参加者：25名（社会人15名、学生6名、社協職員4名）

活動先：輪島市、参加者：21名（社会人5名、学生12名、市職員2名、社協職員2名）

- ⑤被災地から神戸市内に避難されている方への生活相談を実施

近年災害が頻発していることから災害時に迅速に災害ボランティアセンターの設置につなげることができるよう資機材の整備を中央共同募金会の助成を受け行った。また、整備した資機材を活用し、災害支援図上訓練を令和 7 年 1 月 30 日に市区社協及び協定締結団体と合同で開催し

た。

民間社会福祉施設の振興

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を実施した。

活動を支える体制の強化

市・区社協が法人合併することにより、地域生活課題への対応をはじめ地域福祉活動の一層の推進、法人運営規律の強化さらに効率的な事業運営や人が育つ組織体制の構築を行うこととなった。そのための手続きとして、令和6年4月1日付けで合併契約書及び基本合意書を締結した。また、地域福祉活動や福祉サービスに注力する体制を法人全体で構築し、同時に事務事業における ICT 化や業務改善を行うため、社用車の管理、人事給与・勤怠管理など総務事務の外部委託化を進めた。

ミッション1 気づき・共感を育む

福祉の心を育む「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」の推進

(1) ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動

ソーシャルインクルージョン（社会的包摂：だれもが潜在能力を発揮でき役割を持つてつながり合う地域社会づくり）の理念に基づいた「思いやり」「譲り合い」「助け合い」の福祉の心を育み、ボランティアなどの実践活動に結びつけることを目的とした神戸の市民運動「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」を推進した。

①愛の輪ポスター・障害者週間のポスターの募集

福祉教育の一環として、福祉の心を表現した「愛の輪ポスター」、障がいのある人に対する理解を広める「障害者週間のポスター」を募集し、福祉に関する啓発を図った。

愛の輪ポスター・障害者週間のポスター

応募総数 461 点（小学生の部 365 点、中学生・高校生の部 96 点）

②愛の輪ポスター・障害者週間のポスター展（入賞作品）

ア. こうべ市民福祉交流センター 令和6年12月7日(土)～12月13日(金)

イ. 花時計ギャラリー 令和7年1月9日(木)～1月22日(水)

③「愛の輪ポスター、障害者週間のポスター、心の輪を広げる体験作文、表彰式」の開催

実施日 令和6年12月7日(土)

場 所 こうべ市民福祉交流センター

参加者 125 人

④「温かい手」の発行

愛の輪ポスター・障害者週間ポスターの入賞作品集「温かい手」を 1,050 部発行した。

(2) ボランティア・福祉体験学習用資機材の貸出し

市内の学校・事業所等が実施する福祉学習や介護、ボランティア研修を対象に車いす、アイマスクや携帯点字板等の貸出しを行った。

【貸出状況】27 団体

(個数)

車いす	アイマスク	白杖	点字板	合計
94	261	65	165	585

(3) ボランティア活動の支援

愛の輪会員の企業・労働組合によるボランティア活動への取り組みを支援し、自立支援施設等への電化製品の寄贈や、障害者施設への音楽療法用の楽器の寄贈、「こうべ福祉・健康フェア」へのブース出展等、団体の特色を生かした社会貢献活動の推進に取り組んだ。

(4) 障がい者への理解を深める取り組み

各障がいの基本的な知識理解、障がいのある方への配慮や接し方等についての啓発のため、学校や団体に対し「障がいサポーター養成講座」を実施した。

(実施回数 20 回、講座受講 1,171 人)

(5) 中・高校生の社会福祉施設での福祉体験学習（ワークキャンプ）

市内在学の中学生・高校生が神戸市内福祉施設で夏休みの3日間福祉体験学習を行った。協力施設 350 施設 参加人数 1,031 人

市内の福祉施設を対象としたアンケートを実施したところ中高生の頃ワークキャンプに参加し現在福祉の職場で働いている方が全体の6.2%（保育9.7.%）であることがわかり、仕事を選ぶきっかけにもなっていることがうかがえた。

(6) 福祉体験事業の実施

点字図書館と児童館による福祉体験協働事業

障がい者福祉について学ぶ機会を提供し、子どもの福祉の心の醸成を目指すことを目的に点字図書館の紹介・点字体験等を実施した。

実施施設	実施日	参加者
櫛谷児童館	令和6年8月7日（水）	児童13名、児童館職員4名、ボランティア3名
清風児童館	令和6年8月9日（金）	児童21名、児童館職員2名、ボランティア3名

(7) 本会運営施設等での福祉学習の推進

- ①トライやるウィーク
児童館 35 館・675 人
在宅福祉センター 2 人
点字図書館 3 人
- ②視覚障がい学生の職場体験実習 点字図書館（県立視覚特別支援学校）2 人

ボランティア活動の推進

(1) ボランティアの支援

①区ボランティアセンターの支援

「ボランティア情報システム」の運用を通じて、ボランティアに関する情報管理の効率化等、区ボランティアセンターの業務支援を行った。

ボランティアコーディネーターの連絡会を月1回開催し、区ボランティアセンター業務に関する情報共有と意見交換を行い、業務の質的向上に取り組んだ。

また、神戸市が高齢者の社会参加の促進を目的に令和2年9月から開始した「KOBEシニア元気ポイント制度」の説明会では、各区ボランティアコーディネーターが説明会にてボランティアセンターの役割等を説明し、事業の理解向上に貢献した。

さらに、主にボランティアに携わる職員を対象としてボランティアコーディネーション力検定の資格取得支援を行い、3級8名、2級2名の合格者に対して受験料相応額を支給した。

②ボランティアコーディネートの実施

各区ボランティアセンターにおいて、ボランティアの助けを必要とする依頼者の要望等を伺い、その依頼に協力してくれるボランティアを紹介する「ボランティアコーディネート」を実施し、市民によるボランティア活動の推進に取り組んだ。

コーディネート実績（全区計）

	ニード件数	調整完了件数	紹介率
令和 6 年度	1,429 件	1,182 件	82.7%
令和 5 年度	1,330 件	1,047 件	78.7%

③市・区社協ボランティア登録数(令和 7 年 3 月末)

	団体登録数	団体所属人数	個人登録数
令和 6 年度	3,204 団体	119,023 人	3,121 人
令和 5 年度	3,279 団体	119,476 人	3,023 人

④各種ボランティア保険の受付等

ボランティア活動中の事故に備えた、市民活動災害共済等各種ボランティア保険加入受付事務及び連絡調整を行うとともに、市民からの問い合わせ等に対応した。

【ボランティア保険・共済受付状況（兵庫県社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	市民活動災害共済	天災危険補償	行事用保険	合計
件数	125 件	8 件	41 件	174 件
加入者数	4,627 人	47 人	4,357 人	9,031 人

【ボランティア保険受付状況（全国社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	ボランティア活動保険	ボランティア行事用保険	福祉サービス総合保障	合計
件数	28 件	24 件	15 件	67 件
加入者数	161 人	1,116 人	1,134 人	2,411 人

⑤ボランティア活動の支援

ア．神戸市社会福祉協議会ボランティア基金 ボランティアグループ活動助成

ボランティア基金を活用した市内のボランティアグループに対する助成制度を運営し、申請グループに対し助成を行った。（当該制度は市・区間の助成金の不均等の緩和や助成制度の無い区への補完、草の根グループの支援を目的として、令和 2 年度より区ボランティアセンター登録の団体にも対象枠を拡大）

申請団体数：104 件 助成団体数：104 件 助成額：1,230,000 円

イ．県民ボランタリー活動助成

ひょうごボランタリープラザが実施する県民ボランタリー活動助成について、市内で活動するボランティアグループからの申請受付を行った。

エントリー受付件数：683 件 助成決定件数：587 件

ウ．ボランティアルームの貸し出し

市・区社協登録のボランティアグループを対象に、ボランティア活動や会議に用いるための貸室を管理・運営した。加えて、市社協登録グループに対しては、会報の作成等に使用する輪転機を有料で貸し出しを行った。

エ. ボランティア入門クラスの開催

働く世代が参加しやすい土曜日に神戸市全域を対象としてオンラインでのボランティア入門クラスを開催した。また、入門クラス終了後、希望者にボランティア体験を実施するとともに、各区ボランティアセンターを紹介し、ボランティア活動へとつなげた。(のべ参加人数 41 名)

オ. 各種ボランティア関係情報の収集・提供

区ボランティアセンターや各団体から寄せられたボランティア募集や講座情報についてこうべ市民福祉交流センター内のパンフレットラックや本会ホームページを用いて発信した。

カ. コネクトプラス K-onnect + (ボランティアコーディネーター連絡会) の開催

神戸市内や近隣の大学、企業などのボランティアコーディネーターが集まる連絡会を年 4 回開催し、コーディネーション力の向上や、協働して課題解決ができる体制づくりを整えた。

キ. KOBE シニア元気ポイントとの連携

協力会員としての活動がシニア元気ポイントの対象になるよう、KOBE シニア元気ポイント事務局と連携して登録説明会に参加をした。

(2) 地域福祉活動の担い手の育成

① こべっこランド

子どもの遊びをサポートすることを目的に中高生・大学生ボランティアがイベントの運営補助を行った。(延べ 283 人)

また、発達障がいセミナーの修了者が療育サポーターとして発達支援事業で活動した。(延べ 194 人)

② 児童館

絵本の読み聞かせ、人形劇、将棋教室、学習支援等ボランティアとの協働により、魅力ある児童館活動の展開を図った。(延べ 4,765 人※学童保育コーナー含む)

③ 在宅福祉センター

デイサービスでの利用者との話し相手や行事のお手伝いなどのボランティアを受け入れた。(延べ 427 人)

④ 障害者スポーツ振興センター

多くの市民に障害者スポーツに関わっていただくとともに、地域で障害者スポーツの活動を推進していくため、神戸市障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣した。(登録者 392 人、派遣延べ 464 人)

⑤ 点字図書館

点訳・音訳及びテキストデジタイズのボランティアを育成し、蔵書の製作やプライベートサービス・公的情報の点訳・音訳依頼等に、ボランティアグループと協働して取り組んだ。(170 人)

福祉人材育成のための各種研修事業の実施

(1) 市民福祉大学の運営

市民の福祉に関する理解と参加を促進し、ボランティアから社会福祉事業者まで、幅

広い福祉人材の育成と資質の向上を図るために、市民福祉大学の運営を行った。

福祉関係の大学教授や専門家、障がい当事者を講師として招き、多様な学びの機会を提供した。また、参加者同士の意見交換から気づきを得ることにより研修効果を高めるためにグループワークを多用した。

市内 1400 か所の福祉事業所に案内を郵送するとともに、メルマガや SNS (facebook・Instagram・LINE 公式アカウント) を活用し、広報を強化した結果、社会福祉従事者研修において受講者数が令和 5 年度の 1,522 人から令和 6 年度 1,991 人となり、約 31% の増加となった。

また、市民福祉セミナー②『人生、山あり谷あり家族あり』では車いすユーザーの岸田ひろ実氏を、民生委員・児童委員会長副会長研修『差別解消法とは』では脳性まひ当事者の玉木幸則氏を講師として招いた。障がい当事者による実体験を交えた講話は受講者の共感を呼び、アンケートでは「励まされた」「理解が深まった」などの肯定的な意見が多く寄せられた。専門家による理論的な講義とは異なり、当事者ならではの視点から強い印象と深い学びを提供する機会となった。

《研修・講座の実施実績》

区 分	開催本数	開催日数	参加者	延べ参加者
市民対象講座	11	81 日	742 人	2,047 人
地域活動者対象研修	12	12 日	1,666 人	1,666 人
社会福祉事業従事者研修	50	58 日	1,991 人	2,131 人
区ボランティアセンター実施講座	86	462 日	2,110 人	7,894 人
合 計	159	613 日	6,509 人	13,738 人

《動画配信実績》

区 分	開催本数	動画配信日数	動画再生回数
市民対象講座	1	96 日	847 回
地域活動者対象研修	5	306 日	402 回
社会福祉事業従事者研修	0	0 日	0 回
合 計	6	402 日	1,249 回

《DVD 貸出実績》

区 分	貸し出し数
地域活動者対象研修	9 枚

①市民対象講座の開催

ア．ボランティア講座等の開催

講座・研修名	実施日	参加者（延べ参加者）
手話ボランティア養成講座基礎編(昼クラス)	10月9日～2月26日 (20日)	24人(431人)
手話ボランティア養成講座基礎編(夜1クラス)	10月9日～2月26日 (20日)	19人(327人)

手話ボランティア養成講座基礎編(夜2クラス)	10月9日～2月26日 (20日)	17人(305人)
点訳ボランティア入門講座	6月5日～8月7日 (10日)	22人(212人)
精神保健福祉ボランティア講座	10月2日～11月12日 (4日)	33人(126人)
視覚障がい者のためのガイドボランティア講座	5月15日・16日 (2日)	20人(39人)
合 計		135人(1,440人)

イ. 市民活動・啓発講座等の開催

講座・研修名	実施日	参加者
市民福祉セミナー① 「私が歩いた凸凹（でこぼこ）道～みんな がえがおになれるライブ&トークショー ～」	11月29日	168人
	(動画視聴期間 12月23日～3月28日)	動画再生 847回
市民福祉セミナー② 岸田ひろ実さん講演会「人生、山あり谷あ り家族あり」	3月17日	378人
地域人材育成研修① 「協働の作法を学ぼう！」	7月23日	18人
地域人材育成研修② 「会議の作法を身に着けよう！」	8月20日	27人
地域人材育成研修③ 「地域の課題を探り、解決する方法を学ぼう！」	9月3日	16人
合 計		607人
		動画再生 847回

②地域活動者研修の実施

ア. 民生委員・児童委員研修の実施

研 修 名	実施日	参加者
新任研修(9月委嘱者)	9月2日～10月3日 (動画視聴期間)	22人※
		動画再生 61回
		DVD貸出 0枚
新任研修(3月委嘱者)	3月3日～3月28日 (動画視聴期間)	13人※
		動画再生 36回
		DVD貸出 2枚
中堅研修	8月29日 (9月20日～11月29日 後日動画視聴)	453人 (内16人動画視聴)
		動画再生 57回

		DVD 貸出 1 枚
児童委員研修	9 月 28 日 (10 月 18 日～12 月 27 日 後日動画視聴)	503 人 (内 11 人動画視聴)
		動画再生 84 回
		DVD 貸出 1 枚
主任児童委員研修	7 月 18 日～10 月 31 日 (動画視聴期間)	69 人※
地区民児協会会長・副会長研修	2 月 4 日	動画再生 164 回
		DVD 貸出 5 枚
スキルアップ研修①(2 コース)	7 月 26 日・30 日	254 人
スキルアップ研修②(2 コース)	12 月 9 日・13 日	119 人
合 計		55 人
		参加者 1,488 人
		動画再生 402 回
		DVD 貸出 9 枚

※動画配信による研修のため、参加者数欄にはアンケート回答数を記載。

イ. 心配ごと相談所相談員研修会の実施

研 修 名	実施日	参加者数
心配ごと相談所相談員研修	3 月 5 日	66 人

ウ. ふれあい給食会レクリエーション研修の実施

研 修 名	実施日	参加者数
ふれあい給食会レクリエーション研修	12 月 2 日	112 人

③社会福祉事業従事者対象研修の実施

研 修 名		実施日	参加者（延べ参加者）
共通研修	アンガーマネジメント研修	6 月 18 日	56 人
	福祉職のための記録作成研修	9 月 19 日	61 人
	BCP・BCM レベルアップ研修	10 月 1 日	39 人
	カスタマーハラスメント対策研修	11 月 11 日	39 人
	アサーティブコミュニケーション研修	2 月 6 日	92 人
新任研修	ビジネスマナー研修	4 月 18 日	53 人
	社会福祉施設職員新任研修	2 月 18 日	25 人
	キャリアビジョンと職業倫理	7 月 16 日	32 人
	老人福祉施設職員研修	5 月 20 日	41 人
	児童福祉施設職員研修	5 月 17 日	37 人
	保育教諭・保育士研修（2 コース）	5 月 21 日・22 日	97 人
	障がい福祉施設職員研修	6 月 14 日	40 人
	リスクマネジメント研修	10 月 8 日	24 人
	こころのリフレッシュ研修	3 月 7 日	23 人
	コーチング研修	8 月 23 日	50 人

中堅研修	リスクマネジメント研修	8月27日	29人
	レジリエンス力アップ研修	1月21日	25人
	老人福祉施設職員研修	3月10日	14人
	児童福祉施設職員研修	2月20日	13人
	保育教諭・保育士研修	11月1日	27人
	障がい福祉施設職員研修	1月24日	34人
	接遇マナー研修	12月12日	44人
	障がい者施設職員スキルアップ研修	2月13日・14日	9人(18人)
	更生福祉施設職員研修	12月9日	27人
管理職・主任者・職研修	キャリアビジョンと職業倫理	8月8日	26人
	人材育成と指導法	1月16日・23日	44人(87人)
	リーダーシップ向上研修	10月24日	43人
	リスクマネジメント研修	6月12日	35人
	ラインケア研修	12月17日	18人
専門研修	介護技術講座(2コース)	6月5日・12月10日	117人
	愛着障害の理解と支援～理解基礎編～	7月31日	97人
	愛着障害の理解と支援～支援実践編～	8月23日	101人
	医学講座	1月14日	21人
	調理技術講座(実習)	3月6日	16人
	発達障がい支援者基礎研修	9月25日	65人
	発達障がい支援者専門研修	2月26日	35人
	虐待防止研修(高齢・障がい) (2コース)	11月22日 12月3日	201人
	労務・社会保険講座①	5月23日	37人
	労務・社会保険講座②	9月27日	37人
	社会福祉法人会計①<超初級編>	5月30日	38人
	社会福祉法人会計②<基礎編>	7月29日	26人
	社会福祉法人会計③<実践編>	11月27日	20人
	社会福祉法人会計④<決算編>	2月2日	21人
	面接相談スキルアップ(Aコース)	10月11日・25日	17人(33人)
	面接相談スキルアップ(Bコース)	11月26日・ 12月10日	13人(25人)
	面接相談スキルアップ(Cコース)	1月30日・ 2月13日	16人(31人)
	スーパーバイザー養成講座	8月16日～ 9月27日(4日)	16人(61人)

合 計	1,991 人 (2,131 人)
-----	-------------------

④区ボランティアセンター研修事業

地域に根ざしたボランティアの育成や活動者のスキルアップを目的に、各区ボランティアセンターで各種研修を実施した。

区	講座数	延べ開催日数	参加者（延べ参加者）
東灘	7	37 日	174 人 (721 人)
灘	8	48 日	186 人 (927 人)
中央	7	38 日	266 人 (629 人)
兵庫	6	32 日	154 人 (462 人)
北	10	52 日	194 人 (1,153 人)
北神	11	54 日	248 人 (1,175 人)
長田	10	63 日	199 人 (567 人)
須磨	7	39 日	215 人 (544 人)
垂水	7	55 日	185 人 (1,059 人)
西	12	44 日	289 人 (657 人)
合計	85	462 日	2,110 人 (7,894 人)

⑤福祉ライブラリーの運営

	令和 6 年度	令和 5 年度
書籍収蔵数	8,654 冊	8,215 冊
DVD 収蔵数	273 点	908 点
資料収蔵数	972 冊	971 冊
雑誌収蔵数	952 冊 (18 タイトル)	873 冊 (19 タイトル)
年間来室数	9,617 人	9,052 人
貸出カード発行数	670 枚 (新規 177 枚)	481 枚 (新規 177 枚)
書籍・DVD 貸出数	3,871 点	3,146 点

福祉の専門図書、DVDなどを揃えた福祉ライブラリーを運営し、書籍・雑誌・資料・DVDの閲覧、視聴や貸出を行った。毎月テーマを決めて企画展示を行った結果、貸出冊数は昨年の3,146点から今年度3,871点に増え、約23%の増加となった。

書架の耐震強化を行うとともに家具の入れ替えを行い、個別学習席や、キッズスペース、車いす対応席を設けるなど多様な利用者に対応した環境の整備を行った。

⑥研修に係る情報提供

研修に関する情報提供を行った。福祉ライブラリーでは、蔵書検索システム(OPAC)の充実を図り、利用者が検索しやすいようにした。

(2) 認知症介護実践者等養成研修事業

①神戸市認知症介護研修(従事者対象研修)

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

研修管理システムを導入し、受講申込や課題提出、事務連絡等を一括して行った。

研修名	内 容	開催日程・修了者数
認知症介護 実践者研修	認知症高齢者の介護実務者を対象とした 認知症介護に関する実践研修	① 5月21日～8月20日 (集合) 31人 ② 7月2日～10月10日 (集合) 34人 ③ 8月22日～11月19日 (集合) 50人 ④ 11月12日～2月4日 (集合) 50人
認知症介護 実践リーダー研修	介護実務者の指導的立場にある者を対象 とした指導者養成研修	10月4日～1月15日 (集合) 44人
認知症介護 サービス事業開設 者研修	認知症介護を提供する事業所代表者を対 象とした基本的な知識及び介護サービス 事業の運営に必要な知識修得のための研 修	11月12日～11月22日 (集合) 3人
認知症 対応型サービス 事業管理者研修	認知症介護を提供する事業所管理者等を 対象とした適切なサービスの提供に関す る知識修得のための研修	① 7月11日、7月25日 (集合) 15名 ② 11月22日、12月5日 (集合) 18人
小規模多機能型サ ービス等計画作成 担当者研修	小規模多機能型居宅介護支援事業所計画 作成者を対象とした利用者及び事業の特 性を踏まえた事業計画を作成するために 必要な知識・技術の習得のための研修	① 7月31日、8月6日 (集合) 17人 ② 1月22日、1月29日 (集合) 7人
認知症介護指導者 養成研修	認知症介護実践研修を企画・実施すると ともに介護保険施設等における介護の質向 上、地域資源の連携体制構築の推進等に必 要な能力を身につけ、地域全体の介護サー ビスの充実を図ることを目的に養成	4人 (認知症介護研究・研修大府 センターでの受講支援)
認知症介護指導者 フォローアップ研 修		0人 (同上)

②神戸市認知症研修(市民対象研修)

ア. 認知症サポーター養成講座(204回・6,185人)

認知症に関する正しい理解を深め、認知症の人とその家族を支援する協力者を育成するため、市民や企業等を対象とした神戸市認知症研修の相談受付、講師調整等を行った。また、市内の各区で研修を開催した。(444人受講)

イ. ステップアップ講座(106人)

認知症サポーター養成講座の修了者を対象に、認知症の方への理解を更に深める講座を実施。

③キャラバン・メイト養成研修

認知症サポーター養成講座の講師（キャラバン・メイト）の養成や、スキルアップ研修の実施、連絡会開催等により、研修内容の充実に努めた。

研 修 名	開催日程・受講者数	受講者数
全体会（連絡会）	6 月 7 日	31 人
キャラバン・メイト養成研修	9 月 6 日	22 人
認知症サポーター養成講座実施説明会	11 月 26 日	12 人
スキルアップ研修	11 月 26 日	19 人

④神戸市若年性認知症支援者研修

市内支援者が若年性認知症の正しい理解をもち、若年性認知症の人が直面する様々な課題を考え、どう支援に結びつけていくのかを考える機会としてオンラインで開催した。

対象者 市職員、あんしんすこやかセンター職員、えがおの窓口職員、デイサービス等介護保険事業所職員、認知症疾患医療センター職員、認知症初期集中支援チーム職員、障害者相談支援センター職員、計画相談支援事業所職員

実施日 令和 7 年 2 月 17 日

参加者 145 デバイス数

情報発信の充実

(1) ホームページの機能拡充・強化

スマートフォン等の媒体でも閲覧しやすくするために、ホームページデザイン等の大規模な改修を行い、行事、イベントなど本会事業の最新情報を発信した。（ページ閲覧回数 430,462 件/年）

令和 6 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震や令和 6 年 9 月 23 日に発生した令和 6 年奥能登豪雨への対応として、募金の実施状況や災害ボランティア・支援団体向けの情報提供として随時最新情報を提供した。

また、こべっこランドのホームページでは、大切なお知らせをより分かりやすく表示したり、休館日のカレンダーを設けるなどの工夫を行い、利便性の向上を図った。

(2) ソーシャルネットワークサービス(SNS)を活用した情報発信

Facebook や YouTube を活用した本会事業や地域活動情報の発信を行った。また、YouTube においては内外に向けたオンライン研修や説明等にも活用した。

【Facebook 年間利用状況】記事投稿件数 40 件、記事閲覧回数 9,477 回

【YouTube 年間利用状況】動画投稿件数 17 件、動画視聴回数累計 16,241 回

※限定公開分含む

さらに、こべっこランドでは、インスタグラムでの情報発信にも努めた。（フォロワー数 約 2,700 人（昨年比約 1,000 人増）

(3) 機関紙の発行

- ・「福祉ライブラリーニュース」（12 回 センター内掲示、ホームページ等）
- ・「児童館だより」（月 1 回、各児童館で発行）

- ・「学童保育だより」（各児童館、各学童保育コーナーで随時発行）
- ・各在宅福祉センターで発行する機関紙「すずらんだより」「サルビアだより」「まのしんようネット」「こすもんレター」「なでしこホッと 通信」「スマイルなでしこ」
- ・「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」（2回、各 1,500 部）
- ・「点字図書館だより」（6回、各 墨字版 274 部、点字版 185 部、デイジー版 132 部）

(4) 各種の行事・講座の案内、パンフレット等の発行

- ・「こべっこランド NEWS」（7回 253, 100 部）
- ・各所属が開催した各講座案内等

ミッション2 くらしに寄り添う

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

(1) 地域福祉ネットワーク事業の推進

①「地域生活課題への対応と地域での支え合いのしくみづくり」

区社協に配置している地域福祉ネットワークカーが、くらし支援窓口と連携しながら、様々な生活課題の解決・支援に向けて、地域住民組織と関係機関のネットワークを構築しながら、地域での支え合いのしくみづくりを進めた。（生活課題への支援延べ回数：11,896回 前年度比：236回増）

②「地域福祉ネットワーク事業」における区社協支援の推進

地域福祉ネットワーク事業に関わる職員が相互に連携し、情報を共有するための「地域福祉ネットワーク事業担当者連絡会」を開催した。市・区社協の連携と役割分担のもと、より効果的に事業を展開した。

本会善意銀行の活用により緊急的な食糧の購入・備蓄を行い、区社協からの要請に応じて食糧提供を行う「食のセーフティネット事業」を実施した。

そのほか、生活に困窮する方や留学生、大学生、ひとり親世帯等に対し、セブンイレブン・ジャパン及びその他企業、団体から寄贈された食料品や生活必需品を活用して支援を行った。

③職員研修の実施

地域福祉ネットワーク事業の充実と体制強化を目的に、必要なスキルを学べる機会として全6回の職員研修を実施した。研修の様子を撮影し、動画教材を作成することで、全受講対象者の研修受講が実現した。

※開催内容等実施実績については「(3) 生活困窮者支援体制強化事業の推進」に記載

④実績管理アプリの活用による支援体制の強化

令和6年度より実績管理アプリ（kintone）の運用を開始した。相談支援の情報を一元管理することで、迅速な情報共有やアドバイスを受けられる環境を整えることができ、相談支援体制の強化につながった。また、相談支援に関する統計データ分析が容易になり、課題の見える化や職員の事務負担軽減に繋がった。

⑤身近な地域での「居場所づくり」

社会的な孤立を背景として、生活課題を抱える市民を支援することを目的に、各区で、地域とのつながりや役割を感じられる居場所や、就労に向けた体験の場づくりをすすめた。居場所の実際の進め方や効果等の情報共有を行い、区の特徴を活かした居場所を全市で行った。

区	事業名	開催場所	開催日時
東灘	お役立ち隊	ボランティアルーム（区役所内）	毎週水・金曜日
灘	トゥーリートゥーリー	みんなのてらす	第2水曜日
	ほっとウィズ	みんなのてらす	第2金曜日
中央	サラの部屋	みんなのてらす	毎週火曜日
兵庫	さんぽみちクラブ	区役所内会議室等	第3水曜日

	社会とつながるはじめての一步ツアー	区内事業所	年 4 回
北	ふらっとホーム	本区：区役所会議室	第 3 水曜日
		北神：ふれあいの里おくっちょ	第 1 水曜日
	ふらっとホーム 「作業プログラム」	本区：北区役所 会議室 北神：北神区役所 会議室	それぞれ月 2 回
	ふらっとカフェ	ふれあいの里おくっちょ等	不定期
長田	ぺだる	ボランティアルーム（区役所内）	毎週金曜日
須磨	コスモスのたね	地域活動支援コーナー（区役所内）	第 2 木曜日
垂水	ひきこもりの方の家族の居場所	カフェ「iiyo」	第 1 木曜日
	いかなご倶楽部	垂水区役所 会議室	第 4 火曜日
西	家族の会	コミュニティカフェ Rico	奇数月第 2 木曜日

⑥ “コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業

特別緊急支援として助成した財源を活用した事業を実施し、コロナ禍の影響を受けた個人や地域活動の支援に取り組んだ。

・就活応援プロジェクト

就職を目指す生活困窮者や母子・父子世帯、日本での就職を目指す外国人及び学生等の就職活動を支援する「就活応援プロジェクト！」事業を実施する団体へ活動助成を行い、地域の社会資源として定着・継続に向けて取り組んだ。

【対象団体】1 団体

(2) 生活困窮者の自立・社会的孤立への対応

社会的な孤立を背景とする生活困窮者の自立に向けた生活支援を推進するために、区社協と各区役所に設置されている「暮らし支援窓口」が連携し、関係機関や地域住民等とのネットワークによる支援体制を構築し、生活課題の把握や解決に取り組んだ。

また、市・区社協で行う生活困窮者支援体制強化事業との連携により、「新型コロナウイルス特例貸付」の借受人で、今もなお生活困窮状態が続く方への支援に取り組んだ。

(3) 生活困窮者支援体制強化事業の推進

「新型コロナウイルス特例貸付」の借受世帯をはじめとする生活困窮世帯への支援を行うため、市・区社協に人員を配置し、返済が困難な世帯や生活困窮状態が続く世帯へ、償還に関する手続きや生活相談等の支援を行った。

①緊急小口資金借受世帯への情報提供による相談支援

令和 6 年 12 月末をもって、償還期限が来る緊急小口資金借受世帯を対象に、区社協での相談支援につなげることを目的に案内（DM：ダイレクトメール）を送付した。その後、区社協では DM に併せた取り組みを実施した。（対象世帯数：8,245 世帯）

②教育支援資金貸付決定者への図書カード配布事業

進学後の学生生活や卒業後の進路等に関する継続的な相談支援につなげることを目的に、低所得等の理由により、令和 6 年度中に新たに生活福祉資金の教育支援資金の貸付が決定し、令和 7 年度に高等学校へ進学する学生に対し、今後の学生生活への応援として図書カード NEXT を配布した。併せて、対象者のうち、特例貸付借受世帯が含まれる場合は、償還状況を区社協へ共有し、相談支援につなげることを目的に、特例貸付借受

世帯の現況調査を実施した。(対象世帯数：87 世帯)

③職員研修の実施 ※再掲（地域福祉ネットワーク事業 ③）

地域や他機関と関係性を築き、連携することで支援体制強化を図ることができるよう、チームビルドやファシリテーションスキルを学べる機会を設けた（年 6 回）。研修の様子を撮影し、動画教材を作成することで、全受講対象者の研修受講が実現した。

	開催日	内容
第 1 回	6 月 27 日	様々な角度から学生の実情について学ぶ
第 2 回	8 月 26 日	記録の書き方
第 3 回	10 月 4 日	対人援助技術と野中方式事例検討会
第 4 回	11 月 28 日	チームビルディング
第 5 回	12 月 24 日	アイデアソン（企画・事業作り）
第 6 回	2 月 27 日	外国籍住民支援研修

④事業担当者向け情報交換会等の開催

職員育成と担当者同士の連携強化を目的に、新任オリエンテーションと情報交換会を開催した。各区に 1 名ずつ配置された担当者同士が一堂に会する場を設けることで、生活困窮者支援体制強化事業に関する情報を担当者同士で共通認識を持つことができた。また情報共有などを通じて職員同士のつながりと全市的な事業実施体制の強化を図ることができた。

〔新任担当者オリエンテーション〕年 3 回（4 月、8 月、10 月）

〔情報交換会〕年 2 回（8 月、11 月）

〔業務訪問〕年 1 回（2 月）

(4) 生活福祉資金貸付

生活に不安を抱えた低所得、障害者及び高齢者世帯の方々に、資金の貸付と合わせて必要な相談支援を行う「生活福祉資金」について、実施主体である兵庫県社会福祉協議会との連絡調整を行い、申請窓口となる区社協の支援を行った。相談対応を行う区社協では、生活課題解決に向け、地域福祉ネットワーク事業をはじめとする区社協事業との複合的な支援や、区に設置されているくらし支援窓口と連携した支援を行った。

増加・複雑化する生活福祉資金の相談対応を支援するため、市社協では区社協の資金担当者を対象とした連絡会議を定期的に行い、情報共有や課題の集約を行い、必要に応じ兵庫県社会福祉協議会に対し要望調整を行った。

貸付種別	相談件数	貸付決定件数	貸付額
教育支援資金	10,031 件	448 件	287,884,600 円
福祉資金		77 件	7,949,000 円
緊急小口		63 件	4,931,000 円
総合支援資金		0 件	0 円
新型コロナウイルス特例貸付関連 （償還等に関する問い合わせ等）			
計		588 件	300,764,600 円

(5) ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

経済的に厳しい状態にあるひとり親家庭の自立促進を支援することを目的に、神戸市からひとり親家庭高等職業訓練促進給付金を受ける世帯を対象として、看護師や介護福

社士等の資格を取得するための養成機関に入学する際の準備金（上限 50 万円）及び取得した資格を活かして就職する際の準備金（上限 20 万円）の貸し付け（5 年間の就労により償還が免除）を行った。

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	2 件	2 件	750,000 円
就職準備金	9 件	9 件	1,800,000 円
計	11 件	11 件	2,550,000 円

（比較 令和 5 年度実績）

貸付種別	申込件数	貸付実施件数	貸付額
入学準備金	2 件	2 件	1,000,000 円
就職準備金	10 件	10 件	2,000,000 円
計	12 件	12 件	3,000,000 円

児童就学・次世代育成支援

(1) 児童福祉基金を活用した児童就学支援

①唐川修学助成金による施設入所児童への高校修学助成

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、高校に進学する際の入学一時金等の助成を行った。

令和 6 年度	26 件 2,970,000 円	令和 5 年度	19 件 2,290,000 円
---------	------------------	---------	------------------

②民間社会福祉団体への事業助成

市域を対象とする児童健全育成事業に対し、助成を行った。

令和 6 年度	13 件 1,250,000 円	令和 5 年度	12 件 1,160,000 円
---------	------------------	---------	------------------

③生駒大学入学一時金給付事業

児童福祉施設、母子生活支援施設に在籍中の児童、または里親家庭に委託されている児童に対し、大学に進学する際の入学一時金として 1 名につき 30 万円を給付した。

令和 6 年度	13 件 3,900,000 円	令和 5 年度	4 件 1,200,000 円
---------	------------------	---------	-----------------

④「生駒温子」児童福祉事業助成

次世代を担う児童の健全育成とすべての児童が幸福に成長できる環境づくりを推進するために、民間福祉団体が実施する事業・活動への助成を行った。そのうち公募助成では、様々な課題を抱える児童や外国につながる児童への支援事業に対して助成した。

令和 6 年度	5 件 1,140,000 円	令和 5 年度	5 件 1,050,000 円
---------	-----------------	---------	-----------------

ひまわり奨学金

経済的な理由により修学困難な私立高校に在籍する生徒の支援を目的に神戸新聞厚生事業団が実施する「ひまわり奨学金」事業に対して助成を行った。

令和 6 年度	2,400,000 円	令和 5 年度	2,400,000 円
---------	-------------	---------	-------------

⑤かごめ奨学金助成

児童養護施設から自立した大学生の大学院進学を援助することにより、大学院生が学業に専念できるよう奨学金を給付した。

令和 6 年度	1 件	340,000 円	令和 5 年度	1 件	350,000 円
---------	-----	-----------	---------	-----	-----------

⑥SOCIO-ROOTS 事業助成

令和 6 年度の児童福祉分野の実績はなかった。(障がい者を対象とした事業所への助成実績は 4 件 1,302,000 円であった。)

(2) 善意銀行を活用した児童就学支援

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、専修学校等に進学する際の入学一時金等の助成を行った。

令和 6 年度	2 件	600,000 円	令和 5 年度	6 件	1,200,000 円
---------	-----	-----------	---------	-----	-------------

(3) 次世代育成・障害者社会参加支援事業助成

児童福祉基金を活用して、次世代育成支援を目的としてバスを利用した事業に対して、バスの利用料金の一部を助成した。

令和 6 年度	146 件	2,920,000 円	令和 5 年度	108 件	2,160,000 円
---------	-------	-------------	---------	-------	-------------

権利擁護に関する取り組み

(1) 安心サポートセンター

①権利擁護全般に関する相談

認知症等高齢者や知的・精神障がい者などの判断能力が十分でない方が、生活の中で受ける権利侵害や財産管理に関する不安や困り事などについて、精神保健福祉士や社会福祉士などの専門相談員が相談に応じた。また、弁護士による法律相談を実施した（月2回）。

		令和6年度	令和5年度
電話・面談等相談		1,787件	1,619件
内訳	認知症高齢者	299件	393件
	知的障がい者	108件	85件
	精神障がい者	1,163件	949件
	不明等	217件	192件
権利擁護法律相談		46件	29件

②障がい者あんしんネットワーク事業

精神障がい者の人権や権利を擁護するため、市内の社会復帰施設や障害福祉サービス事業所、精神科病院の入・通所者等を対象に、日常生活上の悩みや疾病や障がい、施設等での生活上の問題などについて相談に応じた。

	令和6年度	令和5年度
相談件数（※）	793件	545件

※相談件数は、権利擁護全般に関する相談1,787件に含まれており、再掲。

③日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）

判断能力が十分でないなどの理由により日常生活に支障のある認知症等高齢者や知的・精神障がい者を対象に、①福祉サービスの利用に関する情報提供や利用支援、②生活に必要な預貯金の払出・預入及び日常的な金銭管理、③預貯金通帳や有価証券等の貸金庫での預かり等の支援を実施し、定期的な訪問による見守りを実施した。

ア．相談・調査・契約状況

【相談・調査の状況】

	令和6年度	令和5年度
相談受付件数（※）	714件	695件
調査申込件数	247件	236件

※相談受付件数は、権利擁護全般に関する相談1,787件に含まれており、再掲。

【契約の状況】

		令和 6 年度	令和 5 年度
年度中の契約総数		746 件	713 件
（うち新規契約件数）		134 件	139 件
（うち解約件数）		110 件	101 件
年度末契約件数		636 件	612 件
内 訳	認知症高齢者	259 件	275 件
	知的障がい者	130 件	123 件
	精神障がい者	219 件	189 件
	その他（高次脳機能障害等）	28 件	25 件
年度末契約累積件数		2,863 件	2,729 件

イ. 成年後見制度への移行促進

加齢や病状の進行等により成年後見制度の利用を必要とする利用者が、日常生活自立支援事業から成年後見制度へ適切に移行できるよう、成年後見移行促進員を 1 名（週 1 回）配置し、成年後見支援センターや関係機関・団体等と連携しながら、適切な制度移行を進めた。

【成年後見移行促進員活動実績】

	令和 6 年度	令和 5 年度
相談件数	185 件(30 ケース)	211 件(29 ケース)
後見移行件数	4 件	8 件

ウ. 広報

日常生活自立支援事業の利用促進を図るため、地域団体や関係機関等を対象に個別相談会付き出張説明会を実施し、事業周知や利用促進のための取り組みを行った。

また、特別支援学校の生徒を対象に金銭管理についての出前授業を実施し、卒業後の自立に向けた取り組みへの支援を行った。

出張説明会 18 件（うち、個別相談会実施 3 件）

出前授業 2 件（青陽灘高等支援学校）

エ. 出納業務の効率化

耐火金庫での現金管理を見直し、集配金サービス付きオンライン入出金機を導入し、現金出納業務の効率化・適正化を図った。

④権利擁護相談支援の体制づくり

地域共生社会の実現に向け、権利擁護支援機能の充実と身近な相談支援体制づくりが求められているため、社協職員として必要な権利擁護の視点や知識の習得、権利擁護支援部と区社協・在宅福祉センター等の連携強化を目的に法人内研修を実施した。

ア. 基礎研修（入職 3 年以内の法人職員対象）

実施日：令和 6 年 12 月 16 日（月）

内 容：講義「子どもの権利から考える権利擁護と意思決定支援」

講師：関西学院大学教育学部 准教授 松井 学洋氏

参加者：40 名（会場 30 名・オンライン 10 名）

イ. 実践研修（在宅福祉センター等の職員と権利擁護支援部職員対象）

実施日：令和6年8月21日（水）

内 容：各事業概要の説明

グループワーク（支援現場で感じる疑問や課題について意見交換）

参加者：27名（福祉部18名・権利擁護支援部9名）

⑤高齢者くらしの充実資金貸付事業（リバースモーゲージ）

自宅に住み続けながら、その住まいを不動産担保として生活資金融資を受けた高齢者世帯（1件）を対象に、利子貸付を行った。※平成21年度末で新規契約の受付終了。

⑥こうべ安心サポート委員会の開催

弁護士、医師、公認会計士、福祉関係者、学識経験者等から構成されるこうべ安心サポート委員会及び専門部会を開催し、本会が実施する権利擁護事業に関する審査・監査及び相談、助言等を受け、適正に事業を実施した。

ア. こうべ安心サポート委員会（1回）

議題：専門部会の活動報告、成年後見支援センターの活動状況

安心サポートセンターの活動状況等

イ. 安心生活支援部会・成年後見判定部会（12回）

議題：成年後見の市長申し立てに対する助言 41件

ウ. 権利擁護事業部会

・事業運用審査委員会（6回）

議題：日常生活自立支援事業に関する審議7件、助言6件

・監査委員会（1回）

議題：日常生活自立支援事業・法人後見事業の利用者の財産管理監査

エ. 市民後見部会（6回）

議題：成年後見支援センターの運営、市民後見人養成研修、市民後見活動等に関する助言

⑦神戸シルバー法律研究会事務局事業

高齢者・障がい者等の権利擁護に関する調査・研究及び成果の発表を行うことを目的とした「神戸シルバー法律研究会」の事務局事業を実施した。

会 員：弁護士、司法書士、医師、福祉・行政関係者等28人（令和6年度末）

活動実績：月例会10回、運営委員会2回、シンポジウム1回

シンポジウム「親なきあとをどう支えるか

～障がいのある人の家族・支援者として～」

開催日：令和7年2月15日（土）

参加者：会場84名、オンデマンド配信申込236名（視聴延べ472回）

(2) 神戸市成年後見支援センターの運営

成年後見制度に関する相談や申立書類の書き方、手続に関する説明や助言など申立支援等に関する相談援助を行った。専門的知識を要するケースについては弁護士、司法書士、社会福祉士の専門職が相談に応じた（2職種1組でそれぞれ月2回）。

		令和6年度	令和5年度
電話・面談・オンライン相談		1,417件	1,572件
相談内容	成年後見制度（全般）	603件	748件
	任意後見制度	156件	140件
	申立方法に関すること	212件	185件
	申立支援の依頼	20件	29件
	権利侵害等の相談	26件	18件
	後見人（親族等）の困りごと	55件	14件
	制度に対する苦情・困りごと	46件	75件
	市民後見人活動に関すること	93件	363件
	センター業務に関すること	206件	
成年後見専門相談（再掲）		103件	85件
オンライン相談（再掲）		8件	6件

①神戸市市民後見人の選任と活動の監督支援

第三者後見の新たな担い手として、判断能力が十分でない人の生活を一般市民が社会貢献として支援する市民後見人を養成する「第10期市民後見人養成研修」を開催した（受講者21名）。

また、市民後見人候補者を対象に研修等を実施し、制度に関する知識の習得や市民後見人同士の交流を促進し資質向上に努めた（市民後見人候補者登録者100名）。

受任調整により神戸家庭裁判所へ市民後見人候補者を推薦し、後見活動開始後は監督人として継続的に支援するとともに、後見活動を終了した市民後見人候補者4名に対し、事務局局長感謝状を贈呈した（受任調整会議5回、評価会議1回）

<市民後見人の活動状況>

- ・市民後見人候補者の総選任件数（累計）119件

（うち令和6年度中の選任件数11件）

- ・市民後見人の活動件数29件

（うち本会の後見監督27件、本会との複数後見1件、専門職複数保佐1件）

市民後見人 に対する相談 対応件数	相談の内容（重複あり）				
	報告書作成	財産管理 金銭管理	対象者の 理解と支援	居住・地域 との連携	選任までの 支援
4,117件	299件	293件	224件	130件	126件
	医療	福祉・介護 サービス	終了・辞任 について	所得・収入 ・債務	センター事業 等について
	122件	119件	28件	14件	3,357件

②市民後見人候補者による地域での相談機能・広報機能の充実の取り組み

ア．成年後見制度の利用手続き相談室

各区社協の運営協力を得て、市民に身近な区役所で成年後見制度の相談に応じる

「成年後見制度の利用手続き相談室」を全区で開催し、市民後見人候補者を相談員として派遣した（相談員 44 名/年間相談件数 152 件/開設日 152 日）。

イ. 市民後見人による広報啓発活動

市民後見人が地域のつどいの場に出向き、オリジナル動画とチラシを使って成年後見制度の紹介をした。全区で 18 回、延べ 47 名（実動：15 名）の市民後見人が活動した。

③神戸市と金融機関との権利擁護に関する連携協定にかかる事業の推進

新たに神戸市職員信用組合と協定が締結されたことを受け、連絡会に参加した。また、センターから金融機関窓口へ相談の取り次ぎを行った（2 件）。

④神戸市権利擁護支援のための地域連携ネットワーク協議会の開催

国が進める第 2 期成年後見制度利用促進基本計画に基づいて、権利擁護支援のための課題解決に向け、成年後見制度に関わる専門職団体や関係機関の連携強化、情報共有を図るため新たに協議会を設置した。

準備会：令和 6 年 9 月 6 日（金）

第 1 回：令和 7 年 3 月 14 日（金）

主な議題：相談援助現場での権利擁護支援・成年後見制度に関する相談対応と課題の報告

⑤法人後見事業（法定後見・任意後見）

ア. 法定後見

判断能力が十分でなく他に適切な法定後見人が得られない人を対象に、財産管理や身上保護等を行うため、法人として後見活動に取り組んだ。現在は、市民後見人への引継ぎを前提とした案件のみ新規受任をしている。

また、成年後見支援センターで養成する市民後見人が成年後見人等に選ばれる際には、市民後見人の後見活動の助言や指導を行うために、家庭裁判所から後見監督人の受任要請を受け、後見監督人に就任し市民後見人の活動を支援した。

イ. 任意後見

概ね 60 歳以上の方、知的・精神障がい者で契約にあたり意思能力の確認ができる人を対象に、将来自分で判断できなくなったときに備え、本人と本会との間で任意後見契約を締結し、①定期訪問の実施、②判断能力が十分でなくなった場合は任意後見監督人選任の申立て、③任意後見人として財産管理や生活に必要な事務全般の代行を行った。なお、事業開始当初と比べ任意後見に取り組む専門職等が多くなっており、本会では新規の契約は締結していない。

	類型	令和 6 年度			令和 5 年度
		新規	終了	年度末 合計	
法定	後見	1	2	4	5
	保佐	0	2	1	3
	補助	0	0	0	0
	監督	10	5	28	23
任意	後見	0	0	1	1
	契約	0	0	0	0
合 計		11	9	34	32

⑥広報・啓発

ア．成年後見セミナーの開催

申込者数 会場参加：延べ 266 名 オンデマンド配信視聴：173 名

実施日：基礎編 令和 6 年 8 月 24 日（土） 参加者 76 名、配信視聴 388 回

実務編 令和 6 年 8 月 29 日（木） 参加者 74 名、配信視聴 234 回

令和 6 年 8 月 30 日（金） 参加者 55 名、配信視聴 222 回

イ．出張説明会等への講師派遣

行政や高齢・障害分野の関係機関、福祉関係団体等から講義依頼を受け、講師を派遣した。（延べ 17 件、うち出前トークは 4 件）

ウ．ホームページの運営およびパンフレット等の配布

成年後見制度の利用が必要な人が適切に相談に繋がるようホームページに情報掲載した。また、パンフレットのほか啓発グッズ（クリアファイル・ボールペン）を作成して配布した。（パンフレット等配布 8,154 部）

⑦相談機能の強化

親族後見人の財産管理の方法や注意点、身上保護の悩み相談など、センターが行う親族後見人への相談支援を周知するため新たにチラシを作成、家庭裁判所および関係機関を通じて配布した。

介護保険サービス等の提供

(1) デイサービス事業【介護保険事業】

西在宅福祉センターでは、認知症の方を対象にした「認知症対応型通所介護事業」を実施した。

①通所介護事業（デイサービス）の利用状況 (人)

	実利用者数	延べ利用者数	実施日数	1日当り利用者	定員
認知症対応型（西）	36	2,592	256	10	12

②通所介護事業におけるボランティア登録・活動者数 (人)

	西	前年度
登録者数（実活動者数）	39	33
延べ活動者数	427	224

(2) 居宅介護支援（えがおの窓口）事業【介護保険事業】

要介護者の自立支援を図るため「居宅介護支援事業（えがおの窓口）」を実施し、介護サービス計画（ケアプラン）の作成等を実施した。 (件)

	北	長田	須磨	西	合計	前年度
ケアプラン作成(要介護)	2,251	1,949	1,414	1,737	7,351	8,894
(要支援)※1	403	856	0	85	627	
要介護・要支援認定調査	413	423	236	287	1,359	1,716

※1 ④介護予防支援事業の委託件数含

(3) 交流事業の実施【介護保険事業外】

西在宅福祉センターでは、デイサービスの利用に繋がっていない地域の認知症高齢者を対象に、認知症対応型デイサービスで実施するプログラムを体験する機会を提供するとともに、ご家族が認知症や介護について職員や認知症サポーター等ボランティアスタッフと話し合える交流事業として、月1回ほのぼのカフェを開催した。

(4) 地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）事業

公募により、高齢者の身近な総合相談窓口として事業を神戸市から受託し、地域の特性に応じた地域福祉活動を実施した。

(センター名称)

鈴蘭台あんしんすこやかセンター、真野真陽あんしんすこやかセンター
たかとりあんしんすこやかセンター、平野西神あんしんすこやかセンター

(実施事業)

介護予防マネジメント、包括的・継続的なケア体制の確立
総合相談支援・権利擁護支援

①相談受付実績 (件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護相談	1,014	930	762	1,451
入所・退所相談	74	26	37	120

認知症に関する相談	129	178	211	143
実態把握	311	257	83	87
介護保険外サービス	146	37	16	213
基本チェックリスト	23	26	24	8
権利擁護	73	167	131	29
認定申請	593	387	352	276
困難事例対応	72	228	126	1
その他	58	69	159	2
合計	2,493	2,305	1,901	2,330
前年度	2,509	1,879	1,811	1,870

②ケアマネジメント相談対応実績 (件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント	538	380	225	670
包括的・継続的ケアマネジメント	148	280	402	223
合計	686	660	627	893
前年度	738	412	531	634

③介護リフレッシュ教室・地域ケア会議等 (開催回数)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
介護リフレッシュ教室	4	6	4	6
地域ケア会議	2	3	2	1
地域主催の会議等	53	53	55	62
ケアマネ研修会	5	8	4	1

④介護予防支援事業【介護保険事業】

要支援者の自立支援及び介護予防を図るため「介護予防支援事業」を実施し、介護予防ケアマネジメントを実施した。

(件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
給付管理総数	5,208	5,947	3,995	3,810
内作成件数	3,438	3,356	3,145	3,082
内委託件数	1,770	2,591	850	728
前年度	5,054	4,164	3,930	3,800

⑤地域における支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けることができるように関係機関と連携し、地域での支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築を目指して、次の取り組みを行った。

ア. 鈴蘭台あんしんすこやかセンター

ア) 神戸親和大学内でのふれあい喫茶の開催 (10回・延べ180人)

イ) 地域ケア会議の開催 (1回・参加者数47人)

・開催日：令和6年11月11日(月)

- ・テーマ：オレンジ 110 番活動の周知啓発について
災害の事前準備について地域でできること
 - ウ) 個別ケア会議の開催（1 回・参加者数 36 人）
 - ・開催日：令和 6 年 9 月 13 日（金）
 - ・テーマ：「80 代夫婦と 50 代ひきこもりの息子の 3 人暮らしへの関わりを考える」
 - エ) 認知症等高齢者声掛け訓練・認知症サポーター養成講座（参加者 24 名）
 - ・開催日：令和 6 年 12 月 16 日（月）
 - オ) 地域の介護施設内でのふれあい喫茶の開催
 - ・なごみ（鈴蘭台自治会館）
 - ・レガートクラブ（既存の喫茶店の一部を借りて実施）
 - カ) 出張相談窓口の継続実施（鈴蘭台駅ビル ベルスト鈴蘭台 3 階）
 - ・開催回数 12 回（毎月第 3 金曜日） 相談人数 延べ 48 名
 - キ) フレイル予防
 - ・OK クラブ 毎月 1 回（小部東地域福祉センター）
 - ・ふれあい体操 毎月 1 回（小部地域福祉センター）
 - ・神戸市リハボーイズによるフレイル予防講義（鈴蘭台地域福祉センター）
 - ・ポピュレーションアプローチ「運動」年 2 回（鈴蘭台自治会館）
 - ク) オレンジカフェ立ち上げ支援
 - ・オレンジカフェ うさぎ café オープン（R6.10）
 - ケ) 広報啓発（フレイル予防のチラシ配布）
 - ・ベルスト鈴蘭台（駅ビル）で配架（年 6 回 総数 800 部）
 - ・駅前金融機関 A T M 前でチラシ配布（年 6 回 総数 600 部）
 - ・地域の防災訓練、地域ケア会議、事業者連絡会、民生委員連絡会などで広報。
- イ. 真野真陽あんしんすこやかセンター
- ア) 地域ケア会議の開催（①②参加者 20 名）
 - 開催日：①令和 6 年 8 月 1 日（金）、②10 月 4 日（土）
 - テーマ：梅ヶ香地区のつどいの場について
 - ・個別地域ケア会議（参加者 14 名）
 - 開催日：令和 6 年 9 月 20 日（土）
 - イ) 認知症等高齢者声かけ訓練の実施（参加者合計 50 名）
 - 開催日：令和 6 年 12 月 6 日（土）
 - ウ) 認知症サポーター養成講座 2 回開催（参加者 25 名）
 - 真野小学校 6 年生、真野地域の住民や事業所向けに行った。
 - エ) 「まのしんようネット」の発行（発行回数 4 回。延べ発行部 10,000 部）
 - オ) 災害時要援護者防災訓練への協力（真野地区防災訓練参加）
 - カ) 出張相談窓口の開設
 - ・志里池介護相談室
 - 場 所：志里池地域福祉センター（23 回・来訪者 79 名 そのうち相談件数 9 件）
 - ・真野介護相談室
 - 場 所：真野地域福祉センター（21 回・相談件数 9 件）

キ) 予防介護教室「転ばん塾」の後方支援(12 回開催。延べ 222 名。)

ク) 「絵手紙の会」と「健康マージャン」開催(21 回開催。延べ 110 名。)

ケ) 地域行事等での広報活動

4 月花まつり、5 月真陽フェスティバル、8 月真野盆踊り、2 月真野ふれあいもちつきにて広報誌や虐待防止ネットワークの案内を配布して広報活動を行った。

コ) 福祉授業（総合学習）の実施（延べ 5 日間）

- ・ 真陽小学校 4 年生(37 人参加)
- ・ 真野小学校 5 年生（10 名参加）
- ・ 真野小学校 6 年生に認知症サポーター養成講座を行った。

ウ. たかとりあんしんすこやかセンター

ア) 地域ケア会議の開催

- ・ 東部・だいち中部・板宿地区（1 回開催 参加者 51 名）
開催日：令和 6 年 11 月 21 日（木）
テーマ：災害に強い地域づくりについて学ぼう
- ・ だいち中部地区（1 回開催 参加者 32 名）
開催日：令和 7 年 3 月 4 日（火）
テーマ：集合住宅における見守り体制について

イ) ふれあい喫茶、給食会等の運営支援

- ・ ふれあい喫茶（25 回 ・ 延べ人数 363 名）
- ・ 給食会（11 回 ・ 延べ人数 208 名）
- ・ つどい場（13 回 ・ 延べ人数 104 名）
- ・ つどい場支援（3 回）

エ) 認知症理解のための広報活動

- ・ 神戸市認知症サポーター養成講座（1 回開催/参加者 37 名）
開催日：令和 6 年 8 月 28 日（水）
対象者：鷹取中学校（若宮地区）
- ・ 認知症高齢者声かけ訓練（1 回開催/参加者 50 名）
開催日：令和 7 年 3 月 22 日（土）
若宮地区で、2 センター共催で声掛け訓練を行った。
- ・ 「だいち DE フェスティバル」参加（主催：だいち・太田学校応援団）
開催日：令和 7 年 1 月 11 日（土）

オ) オレンジカフェの後方支援(6 回)

カ) 高齢者向け広報紙「赤灯台」の発行（発行回数 4 回・延べ発行部数 4,160 部）

キ) センターの広報活動

各種団体に向けて、センター広報と介護保険制度の説明会を開催した。（年 2 回）

エ. 平野西神あんしんすこやかセンター

ア) 地域ケア会議の開催

- 開催日：令和 6 年 12 月 19 日（木）（1 回・参加者 48 名）
テーマ：もしもの時に平野町のみんなで助け合うために

イ) 支えあう地域づくりの活動

- ・認知症高齢者声かけ訓練を開催（平野町民児協 参加者 26 名）

開催日：令和 6 年 11 月 22 日（金）

- ・コープ繋がるミーティング

開催日：令和 6 年 9 月 18 日（水）、令和 7 年 3 月 18 日（火）

- ・コープフェスタ（参加者 40 名）

開催日：令和 6 年 10 月 29 日（火）

ウ) センター広報活動を実施

地域活動の場で広報啓発を行った。また、特殊詐欺被害防止啓発新聞を作成し、配布した。

エ) 地域活動の後方支援を実施

- ・体力測定

圏域内のいきいき百歳体操全 7 カ所で体力測定を実施。

- ・檜野台福祉講座（参加者 45 名）

開催日：令和 6 年 7 月 6 日（土）

⑥ 地域支え合い推進事業

地域のひとりぐらし高齢者等の見守り体制づくり（件）

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
見守り暫定訪問	46	24	46	14
地域支え合い活動	96	41	17	62
小地域支え合い連絡会開催回数	15	21	31	6

⑦ シルバーハウジング生活援助員派遣事業

生活相談・安否の確認・一時的な家事援助・緊急時の対応等の高齢者向公営住宅入居者の生活支援事業を実施した。

○ 真野真陽あんしんすこやかセンター

- ・生活相談 47 件 安否確認 3,589 件 緊急対応 147 件
- ・西尻池高層住宅（戸数 98 戸） シルバーハイツ東尻池（戸数 17 戸）
真野ふれあい住宅（戸数 7 戸）

⑧ シルバーハウジングにおける高齢者見守り事業

高齢者向公営住宅入居者の生活相談・安否の確認・緊急時の対応等を実施した。

○ 鈴蘭台あんしんすこやかセンター

- ・生活相談 6 件 安否確認 316 件 緊急対応 16 件
- ・鈴蘭台住宅（戸数 36 戸）

認知症支援事業

(1) こうべオレンジカフェ登録事業

市内の認知症カフェの設置を推進し市民への広報を行った。（登録数 48 件）

“コロナ禍”の影響を受けた人々を支援する特別緊急支援事業を財源としたこうべオレンジカフェ活動応援事業助成（申請数 19 件）と共にフードバンク関西の協力のもと物品提供も行った。

また、オレンジカフェ連絡会を実施し、運営者の交流と情報交換の機会を提供した。

対象者 こうべオレンジカフェ登録団体

実施日 令和6年10月17日

参加者 21 団体および関係機関

(2) 神戸市高齢者安心登録事業

認知症などで行方不明の心配がある高齢者の情報を事前に登録し、関係機関および兵庫県警とであらかじめ共有した。登録者が行方不明となった場合は早期発見・早期保護のため、地域の協力者に対し電子メールで捜索協力を呼びかけた(24 時間 365 日対応)。

	登録者数	捜索協力者数	メール配信依頼数
令和6年度	1,907 人	938 人	19 件

(3) 若年性認知症の方への支援

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、月1回本人同士、家族同士が安心して、自己実現や情報交換ができる居場所として交流の場「ソレイユ」を実施した。

開催日：毎月1回実施

会 場：こうべ市民福祉交流センター・中央区文化センター（音楽室） 等で実施

内 容：参加者の希望を聞きながら、音楽会、相楽園に遠足、フラワーアレンジメントや和菓子づくり体験を行った。

参加者：延べ202名

(4) 神戸市介護保険施設入所相談センターの運営

ケアマネジャーからの依頼に基づき、施設入所の緊急性が高い人の受け入れができる特別養護老人ホームを紹介する等を実施した。近年はケアマネジャーにより直接、受け入れ施設の調整が対応でき相談件数が大幅に減少したため、入所相談センターとして一定の役割を終え令和6年度をもって閉鎖した。

相談件数 25 件

障害者地域生活支援拠点の運営

(1) 障害者相談支援センター

障がい者及び障がい児が住み慣れた地域で、障害福祉サービス等を利用して、その有する能力及び適性に応じて自立した日常生活又は社会生活が営むことができるよう支援するとともに、地域の障がい者等の福祉に関する各般の問題について、障がい者等、及びその介護を行う者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等を行った。

また、区域レベルでは、センターと自立支援協議会との共催による啓発講座やネットワークの構築、地域の事業所との意見交換、その他地域課題に合わせた個別支援会議等を行った。

① 基本相談

(件)

相談内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
福祉サービスの利用等に関する支援※	4,528	7,170	3,166	6,423	5,774
障害や症状の理解に関する支援	178	78	168	78	57
健康・医療に関する支援	411	986	283	454	599
不安の解消・情緒安定に関する支援	905	288	40	192	271
保育・教育に関する支援	53	70	9	5	14
家族関係・人間関係に関する支援	205	692	38	100	267
家計・経済に関する支援	53	91	8	26	79
生活技術に関する支援	179	288	59	35	175
就労に関する支援	61	141	56	3	27
社会参加・余暇活動に関する支援	8	5	2	0	37
権利擁護に関する支援	68	60	13	24	36
その他	730	4,453	1,821	3,458	1,422
合 計	7,379	14,322	5,663	10,798	8,758
前年度	7,707	11,660	11,912	14,936	7,855

※福祉サービスの利用等に関する支援の中には、次の調査等を含む

(件)

調査等内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
障害支援区分認定調査	36	44	33	53	37
支給決定更新等に係る勘案事項調査	302	275	263	386	253
移動支援サービス利用に係る聴き取り等	14	14	7	9	14

②指定特定相談支援事業者・指定障害児相談支援事業者としての相談契約件数 (件)

支援内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
計画相談支援	30	27	14	33	35

③指定地域相談支援 (件)

支援内容	いそがみ	きた	しん ながた	たかとり	ひらの せいしん
地域移行	0	0	1	0	0
地域定着	0	0	0	0	0

④その他

・福祉啓発講演会の実施（須磨区）

障がいの有無にかかわらず多様な個性が輝く地域共生社会の実現に向けて、地域の福祉従事者等への障害理解の推進のために、中元 康雄氏(幸地クリニック)をお招きし、「ひきこもりの理解と対応」と題し講演会を開催した。

実施日：令和6年11月7日（木）16：30～18：30

場所：須磨区役所2階 健康教育室

参加者：62名

・児童館との交流会（北区）

障がい理解・啓発を目的にひよどり台児童館の利用者(児童)と北区障害者地域生活支援拠点の利用者(障害者)との交流会を企画した。

実施日：令和6年8月14日（水）13：30～14：30

場 所：ひよどり台児童館

参加者：24名

(2) 見守り支援事業

障がい者等が地域で安心して自立した生活を継続できるよう、関係機関と互いに連携して、地域全体で障がい者等を見守る体制の整備を進めた。また、災害時の要援護者の支援体制を構築するための取り組みを始めた。

(件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
見守り総件数（延べ）	543	254	23	1,098	404
支援へとつないだ件数	8	2	5	1	1

ネットワーク構築のための会議等	1	3	5	8	1
緊急対応	0	0	0	0	0

(3) 地域生活支援拠点コーディネート事業 (件)

内 容	中央区	北区	長田区	須磨区	西区
緊急受入(短期入所)相談総数※	3	12	7	8	20
日中活動の場の提供	3	2	0	4	2
区内の短期入所施設及びグループホームの状況把握	3	11	0	4	10
災害時要援護者支援	2	4	3	1	1

※1 回の入所のために複数日・回に渡る調整を行った場合でも 1 とする。

(4) 地域支援機能強化事業

全市レベルでは、入所施設へのヒアリングで見えてきた課題に対し、リーフレットの作成、施設への出張研修、施設からの退所支援の実例を用いた研修の実施を行った。各区では、区の実情に合わせて、グループホーム等他機関との連絡会や、研修の実施を行った。その他、体験型グループホーム事業の利用調整、神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業が主催する会議への参加等を行った。

(5) 自立支援協議会事務局の運営

障がいの有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、各区内の福祉施設、教育、医療、行政等の関係機関とともに、障がい者の自立、社会参加、広報・啓発を目的に地域団体や関係者等と連携し「区自立支援協議会」の運営を行った。

(6) 生活介護・短期入所

北区、須磨区、西区で、生活介護と短期入所事業を行った。また、中央区は、障害者地域生活支援拠点の相談部門を担い、生活介護及び短期入所を担当する社会福祉法人神戸明輪会と共同で運営した。長田区についても相談部門を担い、生活介護及び短期入所は、既存施設である社会福祉法人みらいが運営する「みらいおもいけ園」と連携した。

①生活介護

ア. 利用状況

介護を必要とする方に、昼間、入浴、排せつ食事の介護等を行うとともに、創作活動や生産活動（工賃として作業訓練費の支払い有）などの機会を提供することにより、地域での生活を支援した。

また、施設や保護者の元からの自立等にあたって、地域生活への移行をしやすくするための体験の場としての役割も果たした。

開設時間：9:00～16:00

定 員：20 人

休業日：土・日曜日 年末年始 (人)

	北区	須磨区	西区
利用登録者数 (令和 7 年 3 月 31 日現在)	35	47	51

延べ利用者	3,841	3,003	3,749
-------	-------	-------	-------

イ. 委員会の各種運営（感染症・虐待・BCP）

法令に基づく感染症対策委員会、虐待防止委員会、危機管理・防災対策委員会の開催ならびに各種マニュアルの見直しや研修を行った。

ア) 感染症研修

・サービス部門

実施日：令和6年10月25日（月）17：00～18：30

場 所：須磨在宅福祉センター

講 師：クックデリ株式会社 佃井りさ 氏

・相談部門

実施日：令和6年10月31日（木）17：45～19：15

場 所：神戸市立総合福祉センター

講 師：社会医療法人 神鋼記念会 看護師 秋山 拓三 氏

感染管理認定看護師 石田 珠水 氏

イ) 虐待防止研修

・障害部門

実施日：令和6年8月16日（金）17：45～19：15

場 所：神戸市立総合福祉センター

講 師：株式会社アドバンス・ケアシステム 河野 次雄 氏

・サービス部門事例検討

実施日：令和7年2月21日（金）17：45～19：15

場 所：神戸市立総合福祉センター

講 師：社会福祉法人あかりの家 支援部長 福原 正将 氏

・高齢部門

実施日：令和6年8月27日（火）17：45～19：15

場 所：総合福祉センター

講 師：灘・ひとつび法律事務所 弁護士 津田 隆男 氏

ウ. 共生型サービスの創出

65歳を迎える利用者や特定疾病による要介護認定を受けた40歳以上の利用者が、通い入れた事業所でサービスを継続利用できるよう、介護保険制度に基づく共生型通所介護事業所として指定を受け、高齢障がい者へのサービス提供を実施した。

（西：2人、須磨：2人）

エ. 各在宅重点取り組み

アート＆ワーク活動等で個性を活かした表現活動を行い、アート作品や陶芸、商品づくりなどの制作活動を実施。また、展示会への出展を行うなど社会参加活動を実施し、複数の展示会で入選した。

ア) 北区

・北区共同募金委員会と連携し、あかはねマルシェや募金百貨店プロジェクト等に参加し、利用者の生産品を積極的に販売した。

- ・KOBÉ シニア元気ポイント制度を活用し、シニアボランティアにシルエットパズル教室を実施して頂き、利用者の余暇活動の充実を図った。

イ) 須磨区

- ・地域のイベント、自立支援協議会が主催している区役所等での販売会に定期的に参加。地元住民や近隣の他施設の利用者との交流も行っている。
- ・短期入所において、夜間看護師を配置し、要医療的ケア重症児者の受け入れを行った。(神戸市要医療的ケア重症児者短期入所利用支援加算該当)

ウ) 西区

- ・理学療法士を配置し、心身機能や日常動作の維持・向上を目的としてリハビリテーションに取り組んだ。
- ・滝川第二中学校エキスパークラス(中学2年・42名)のボランティア活動の場として、定期的に生活介護利用者との交流事業を実施し、レクリエーション(ゲームやクイズ、クッキングなど)を通じて若い世代への障がい理解を深める取組みを行った。
- ・障がい者交流事業の実施
障がい者の暮らしに役立つ講座や参加者同士が交流するため、「Smile★café」を3ヶ月に1回定期開催した。

②短期入所

障がい者の地域での生活を支えるため、短期入所を行った。

また、介護者の急な入院等で在宅生活が困難な障がい者を、緊急で受け入れた。

定 員：5人(別に緊急利用床1床)

休業日：年中無休

(人)

	北区	須磨区	西区
利用登録者数	116	179	223
延べ利用者	2,354	2,708	2,846

(7) 職員育成研修

職員のスキル向上に繋がる研修や、運営上の課題等をリアルタイムに反映した研修を積極的に企画実施した。また、神戸女子大学健康福祉課と連携し、教員ならびに生徒から指導を受けるとともに技術交換の相互研修も行った。

①服薬事故防止研修

実施日：令和6年7月29日(月) 17:00～18:30

場 所：北在宅福祉センター

講 師：すまポラム薬局 薬剤師 宮内 智也 氏

②安心サポートセンター合同研修

実施日：令和6年8月21日(水) 9:00～12:30

場 所：こうべ市民福祉交流センター201 会議室

③介護技術研修

ア. ボディメカニクス、介護技術の基本、質疑応答 等

実施日：令和6年9月9日(月) 17:00～18:30

場 所：北在宅福祉センター

講 師：神戸女子大学 社会福祉学部 教授 津田 理恵子 氏

イ．ツールを用いた移乗支援 等

実施日：令和 6 年 9 月 13 日（金）17：00～18：30

場 所：須磨在宅福祉センター

講 師：神戸女子大学 社会福祉学部 教授 木村 あい 氏

ウ．ベッド・車いすへの移乗 等

実施日：令和 6 年 9 月 19 日（木）17：15～18：45

場 所：西在宅福祉センター

講 師：神戸女子大学 社会福祉学部 准教授 名定 慎也 氏

④ヒューマンエラー研修

実施日：令和 6 年 11 月 14 日（木）17：45～19：15

場 所：こうべ市民福祉交流センター301 教室

講 師：神戸学院大学 現代社会学部 教授 中田 敬司 氏

⑤虐待防止研修動画

本会と災害連携協定を締結している㈱MOP と連携し、市内事業所向けに虐待防止に関する動画を作成。また、YouTube にも無料公開したことで全国から大きな反響を得た。令和 7 年 4 月末現在で 12,000 回の再生回数。

(8) 神戸市障害者地域生活支援拠点への参画に関するモデル事業への参加

各区の拠点機能のさらなる充実と強化を図ることを目的として、民間事業所との連携の在り方について検証するために、本会から提言し神戸市が実施した『「多機能拠点整備型」+「面的整備型」のモデル実施』について、北・須磨・西区が参加した。

また、西区においては、拠点運営推進会議を開催し、家族・当事者団体、特別支援学校障害福祉事業所、区保健福祉課等関係機関とともに、短期入所の利用に関する現状や課題の共有と今後の連携について協議した。

障がい者のスポーツ・文化の振興

(1) 広報・普及啓発

市民の障がい者スポーツへの理解促進を図るため、広報・普及啓発活動を積極的に展開した。

①「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」の発行

事業の紹介や障がい者スポーツに関する情報を掲載し、公的施設や関係団体等に配布した。(年2回9月、3月発行・各1,500部)

②ホームページによる情報提供

神戸市障害者スポーツ大会や各種大会、イベントの開催案内と開催報告の掲載。障害者スポーツ教室の紹介、参加申込受付。神戸市障害者スポーツ振興センターだより、スポーツ用具貸出の案内などの情報発信を行った。

③パネル展示

障がい者スポーツを紹介する写真・パネル、各大会やイベント、文化事業(HUG+展、ジョイフルコンサート)などの案内、啓発のためパネルを花時計ギャラリー、さんちか通路アドウィンドー、こうべ市民福祉交流センター、しあわせの村(手のひらギャラリー)に展示した。

④障害者スポーツ指導員やパラスポーツチームの派遣による啓発

市内の小学校、中学校、大学に当センターの障害者スポーツ指導員やパラスポーツチームを派遣し、障がい者スポーツが体験出来る機会を提供した。(小学校・中学校・大学等計4回)

⑤パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE “夢プロジェクト 2024”

(兵庫県・兵庫県障害者スポーツ協会・こうべ市民福祉振興協会と共催)

障がい者スポーツの普及と身近な場所で障がい者スポーツに取り組める環境作りに向けた啓発を目的として開催した。パラリンピック種目を含む23競技が一堂に集まり、パラスポーツを見るのも初めてという人も、様々な競技にふれて学び、体験できる機会を提供した。同時にFUNラン&ウォーキングを開催。

実施日：令和6年11月3日(日・祝)

場 所：しあわせの村

参加者：延べ(各ブースの参加者数計)4,169人

関係者：300人(競技団体152人ほか)

⑥地域行事等への支援・連携

区役所や関係団体が主催する障がい者スポーツの体験行事と連携し、地域における啓発と人材育成を支援した。

行事名：ボッチャ体験会(灘区役所主催)

実施日：令和7年2月16日(日)

場 所：王子スポーツセンター体育館

(2) 神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会にオフィシャルスポンサーとして参画

東アジア初の「神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会」の開催にあたり、大会組織委員会と「シルバースポンサー」契約を締結し、大会ロゴマークの積極的な活用等を通して、大会の成功及びパラスポーツのさらなる普及に努めた。約1万枚のチケット

を購入し、障害者団体・福祉関係者・大学等を対象に大会へ招待した。

(3) 障がい者スポーツに関する調査研究事業

全国障害者スポーツ協議会等への参画を通して(公財)日本パラスポーツ協会や各種障がい者スポーツ団体等との情報交換や連携を深め、神戸市の障がいのある方がスポーツの場や機会を増やすための研究、企画を行った。

(4) 神戸市障害者スポーツリーダーの養成及び派遣

多くの市民に障がい者スポーツに関わっていただくとともに、地域で障害者スポーツの活動を推進していくため、神戸市障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣した。(登録者 415 人)

①初級パラスポーツ指導員養成講習会の開催

(神戸市スポーツ推進委員、スポーツクラブ指導者、教員を主な対象として実施)

実施日 第 43 回：令和 6 年 7 月 20 日(土)～8 月 3 日(土)のうち 5 日間

第 44 回：令和 7 年 2 月 1 日(土)～2 月 22 日(土)のうち 4 日間

受講者 第 43 回：10 人(修了者 10 人)

第 44 回：25 人(修了者 25 人)

場 所：こうべ市民福祉交流センター

②神戸市障害者スポーツリーダースキルアップ講座の開催

内 容：ボッチャ審判講習会

実施日：令和 7 年 2 月 23 日(日)、3 月 9 日(日)

場 所：市民福祉スポーツセンター

受講者：28 人

③神戸市障害者スポーツリーダーの派遣(のべ 556 人)

派遣行事名	開催日等	派遣人数
第 32 回全国身体障害者野球大会	6 月 1 日(土)～2 日(日)	50 人
第 63 回神戸市障害者スポーツ大会(ボッチャ)	5 月 12 日(日)	14 人
第 63 回神戸市障害者スポーツ大会(水泳)	5 月 19 日(日)	14 人
第 63 回神戸市障害者スポーツ大会(フライングディスク)	5 月 26 日(日)	16 人
第 63 回神戸市障害者スポーツ大会(陸上競技)	6 月 9 日(日)	20 人
皇后杯 第 33 回日本女子車いすバスケットボール選手権大会	12 月 7 日(土)～8 日(日)	30 人
パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE 夢プロジェクト 2024	11 月 3 日(日・祝)	22 人
第 37 回神戸市障害者ふれあいロードレース大会	12 月 7 日(土)	22 人
第 19 回神戸市パラバレーボール大会(座位)	3 月 2 日(日)	14 人
障害者スポーツ教室(脳血管障害者体操教室)	5 月～7 月、9 月～11 月、 1 月～3 月	145 人
障害者スポーツ教室(バドミントン教室)	6 月～8 月、1 月～3 月	117 人

(5) 障がい者スポーツ大会の開催

障がい者が、競技等を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、市民の障がいに対する理解を深め、社会参加の推進に寄与するため、神戸市や障害者団体、競技団体等とともに各種障がい者スポーツ大会を開催した。

【主催】

①第 63 回神戸市障害者スポーツ大会の開催

第 23 回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」の予選会を兼ねて開催した。競技の進行は各競技協会の主管のもと、審判員を配置して行った。

種目	開催日	参加者・審判	開催場所
卓球	4 月 21 日(日)	身体障がい者：46 人 知的障がい者：96 人 精神障がい者：9 人 計 151 人 審判：52 人	中央体育館
ボッチャ	5 月 12 日(日)	肢体障がい者：14 人 計 14 人 審判：15 人	王子スポーツセンター (体育館)
水泳	5 月 19 日(日)	身体障がい者：19 人 知的障がい者：68 人 精神障がい者：1 人 計 88 人 審判：30 人	市民福祉スポーツセンター
フライング ディスク	5 月 26 日(日)	身体障がい者：38 人 知的障がい者：91 人 精神障がい者：24 人 計 153 人 審判：10 人	王子スポーツセンター (王子スタジアム)
陸上競技	6 月 9 日(日)	身体障がい者：58 人 知的障がい者：191 人 精神障がい者：1 人 計 250 人 審判：108 人	王子スポーツセンター (王子スタジアム)
5 種目合計		参加者：656 人 審判：215 人	

②第 36 回神戸市知的障害者フットサル大会の開催

実施日：令和 6 年 11 月 9 日(土)

場 所：神戸総合運動公園（球技場）

参加チーム：8 チーム

関係者：27 人（神戸市サッカー協会ほか）

③第 37 回神戸市障害者ふれあいロードレース大会の開催

実施日：令和 6 年 12 月 7 日(土)

場 所：神戸総合運動公園補助競技場およびその周辺

参加者：143 人（身体障がい者 4 人、知的障がい者 114 人、精神障がい者 0 人、健常者 25 人）

関係者：92 人（神戸市陸上競技協会ほか）

④第 19 回神戸市座位バレーボール(Sitting Volleyball)大会の開催

実施日：令和 7 年 3 月 2 日(日)

場 所：しあわせの村（体育館）

参加チーム：8 チーム 50 人

関係者：24 人（神戸市障害者スポーツリーダーほか）

【共催】

⑤第 18 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」の開催

（兵庫県・兵庫県障害者スポーツ協会と共催）

実施日：令和 6 年 4 月 28 日(日)

場 所：神戸総合運動公園 ユニバー記念競技場

参加者：53 人（うち神戸市から 10 人参加）

関係者：110 人（兵庫県障害者スポーツ協会、神戸市陸上競技協会、兵庫障害者フライングディスク協会ほか）

⑥第 32 回全国身体障害者野球大会の開催（日本身体障害者野球連盟と共催）

実施日：令和 6 年 6 月 1 日(土)～2 日(日)

場 所：ほっともっとフィールド神戸、G7 スタジアム、若葉学園

参加チーム：16 チーム（291 人）

関係者：104 人（日本身体障害者野球連盟ほか）

⑦皇后杯 第 33 回日本女子車いすバスケットボール選手権大会の開催

（日本車いすバスケットボール連盟・日本パラスポーツ協会・日本バスケットボール協会と共催）

実施日：令和 6 年 12 月 7 日(土)～8 日(日)

場 所：神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸

参加チーム：6 チーム（73 人）

関係者：300 人（日本車いすバスケットボール連盟 40 人、兵庫県バスケットボール協会および市内高校バスケットボール部 100 人ほか）

⑧第 26 回全国シニア選抜車いすバスケットボール大会の開催

（日本車いすバスケットボール連盟・日本パラスポーツ協会・日本バスケットボール協会と共催）

実施日：令和 6 年 12 月 7 日(土)～8 日(日)

場 所：神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸

参加チーム：8 チーム（120 人）

関係者：208 人（日本車いすバスケットボール連盟 35 人、兵庫県バスケットボ

ール協会および市内高校バスケットボール部 100 人ほか)

⑨第 8 回西日本 CP サッカー大会

選手並びにチームの競技力向上・普及および発展を目的とすると共に、障がい者スポーツ及び障がい者サッカーの普及と周知を図り、障がいの有無を越えたユニバーサルな関係を築いたインクルーシブな大会を目指して西日本地域で開催。

実施日 : 令和 6 年 9 月 21 日(土)

場 所 : しあわせの村 多目的運動広場

参加チーム : 6 チーム (66 人)

関係者 : 20 人 (神戸市サッカー協会、兵庫県サッカー協会ほか)

⑩第 7 回兵庫県障がい者サッカー交流会

県内の精神障がい者サッカー、アンプティ(切断障がい)サッカー、ブラインド(視覚障がい)サッカー、CP(脳性麻痺)サッカー、ろう者サッカー、知的障がい者サッカーの各 1 チームが集い、予め呼びかけた地域の健常者とともに、サッカーを通じて交流を行った。

実施日 : 令和 6 年 9 月 21 日(土)

場 所 : しあわせの村 多目的運動広場

参加チーム : 6 チーム (66 人)

関係者 : 20 人 (神戸市サッカー協会、兵庫県サッカー協会ほか)

⑪2024 年度' 89 フェスピック神戸大会記念日本身体障害者サッカー親善大会

1989 年のフェスピック神戸大会の開催を機にわが国で初めて結成されたサッカーチームの当時の選手や関係者が国内各地から集い、市内の身体障害者サッカーチームの選手や健常者との交流戦を行い、交流を図った。

実施日 : 令和 6 年 9 月 22 日(日)

場 所 : しあわせの村 多目的運動広場

参加チーム : 8 チーム (88 人)

関係者 : 20 人 (神戸市サッカー協会、兵庫県サッカー協会ほか)

(6) 障がい者スポーツ大会への選手派遣・参加助成

①第 24 回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」への選手派遣

個人 6 種目に出場し、金 10 個、銀 9 個、銅 10 個、計 29 個のメダルを獲得した。

開催期間 : 令和 6 年 10 月 26 日(土)～28 日(月)

開 催 地 : 佐賀県

派遣人員 : 選手、コーチ団等 計 61 人

②全国障害者スポーツ大会に向けての選手強化

対象種目の競技団体に選手の育成強化費(練習会場使用料、講師謝礼等)を助成した。6 団体 計 247,000 円

③近畿ブロック予選会に向けての選手強化・参加助成

全国障害者スポーツ大会出場を目指す各障がい者スポーツ団体に、育成強化費のほか、近畿ブロック予選会への参加費や移動費を助成した。

育成強化費 : 5 団体 計 150,000 円

参加費・移動費：6 団体 計 246,322 円

- ・車いすバスケットボール競技近畿ブロック予選会
- ・知的障害者バスケットボール競技近畿ブロック予選会
- ・精神障害者バレーボール競技近畿ブロック予選会
- ・フットソフトボール競技近畿ブロック予選会
- ・ソフトボール競技近畿ブロック予選会
- ・知的障害者サッカー競技近畿ブロック予選会

④知的障害ソフトボール競技近畿ブロック予選会開催

知的障害ソフトボール競技における全国障害者スポーツ大会の近畿ブロック予選会を開催した。

実施日：令和 6 年 6 月 16 日(日)

場 所：北神戸田園スポーツ公園野球場

参加チーム：8 チーム (108 人)

関係者：15 人 (兵庫県ソフトボール協会)

大 会 名	開催日	開催地	参加者
精神障害者バレーボール競技近畿ブロック予選会	6 月 15 日(土)	滋賀県	15 人
車いすバスケットボール競技近畿ブロック予選会	6 月 1 日(土) 2 日(日)	大阪市	12 人
知的障害者サッカー競技近畿ブロック予選会	6 月 9 日(日)	兵庫県	16 人
知的障害者ソフトボール競技近畿ブロック予選会	6 月 16 日(日)	神戸市	16 人
知的障害者フットソフトボール競技近畿予選会	6 月 16 日(日)	奈良県	13 人
知的障害者バスケットボール競技近畿ブロック予選会	6 月 8 日(土) 9 日(日)	大阪市	11 人

⑤パリ 2024 パラリンピック競技大会への出場支援

パリ 2024 パラリンピック競技大会に日本代表として世界へ挑む神戸市の選手に激励金を支給した。

開催期間：令和 6 年 8 月 28 日(水)～9 月 8 日(日)

開 催 地：パリ

支援人数：1 人(パワーリフティング)

支援金額：50,000 円

(7) 障がい者スポーツ教室の開催

①身体障がい児・者スポーツ教室の開催 (小計 143 人)

開催場所：市民福祉スポーツセンター (体育館・プール)

教 室	開 催 日 等		参加者
脳血管障がい者体操教室 (16 歳以上)	I 期 5 月～ 7 月	水曜日 10 回	15 人
	II 期 9 月～11 月	水曜日 10 回	15 人
	III 期 1 月～ 3 月	水曜日 10 回	16 人
ビームライフル教室	前期 5 月～ 7 月	火曜日 10 回	6 人

(16 歳以上) (※)	後期 9 月～12 月	水曜日 10 回	8 人
身体障がい者水泳教室 (16 歳以上) (※)	前期 5 月～ 7 月	火曜日 10 回	13 人
	後期 9 月～11 月	火曜日 10 回	15 人
身体障がい児水泳教室 (3 歳～高校生親子)	I 期 5 月～ 7 月	金曜日 10 回	11 人
	II 期 9 月～11 月	土曜日 10 回	11 人
	III 期 1 月～ 3 月	金曜日 10 回	4 人
ダーツ教室 (16 歳以上) (※)	前期 6 月～ 7 月	金曜日 10 回	6 人
	後期 11 月～12 月	土曜日 5 回	5 人
ブラインドテニス教室 (16 歳以上)	9 月～12 月	金曜日 10 回	3 人

開催場所：しあわせの村

車いすテニス教室 (16 歳以上) (※)	8 月～11 月	日曜日 6 回	4 人
ローンボウルズ教室 (16 歳以上) (※)	5 月～9 月	土・日曜日 5 回	11 人

②知的障がい児・者スポーツ教室の開催 (小計 383 人)

開催場所：市民福祉スポーツセンター (体育館・プール)

教 室	開 催 日 等		参加者
体操教室 (16 歳以上)	前期 4 月～ 5 月	金曜日 5 回	17 人
	後期 9 月～10 月	金曜日 5 回	16 人
水泳教室 (5 歳～小学校 3 年生親子)	I 期 5 月～ 7 月	土曜日 10 回	21 人
	II 期 9 月～12 月	水曜日 10 回	11 人
	III 期 1 月～ 3 月	土曜日 10 回	20 人
水泳教室 (小学校 4 年生～6 年生親子)	I 期 5 月～ 7 月	水曜日 10 回	7 人
	II 期 9 月～12 月	土曜日 10 回	19 人
	III 期 1 月～ 3 月	土曜日 10 回	13 人
水泳教室 (中学生～20 歳)	I 期 5 月～ 7 月	土曜日 10 回	26 人
	II 期 9 月～12 月	土曜日 10 回	22 人
	III 期 1 月～ 3 月	土曜日 10 回	23 人
水泳教室 (16 歳以上) (2 部制) (※)	前期 5 月～ 7 月	土曜日 10 回	1 部 19 人 2 部 17 人
	後期 10 月～12 月	土曜日 10 回	1 部 21 人 2 部 14 人
体操教室 (中学生以上)	前期 6 月～ 8 月	金曜日 10 回	12 人
	後期 10 月～12 月	水曜日 10 回	12 人
未就学水泳教室 (3 歳～未就学)	I 期 6 月～7 月	土曜日 5 回	19 人
	II 期 10 月～11 月	土曜日 5 回	20 人
	III 期 1 月～2 月	土曜日 5 回	18 人
体操教室 (5 歳～小学 6 年生)	前期 5 月～ 7 月	火曜日 10 回	16 人
	後期 1 月～ 3 月	水曜日 10 回	11 人
親子体操教室 (3 歳～就学前)	9 月～11 月	金曜日 10 回	9 人

③障がい区分なしの教室の開催（小計 107 人）

開催場所：市民福祉スポーツセンター（体育館）

教 室	開 催 日 等		参加者
バドミントン教室（16 歳以上）	前期 6 月～ 8 月	水曜日 10 回	28 人
	後期 1 月～ 3 月	水曜日 10 回	28 人
陸上競技教室	前期（4 月～9 月）	月 1/ 木曜日 5 回	27 人
	後期（10 月～2 月）	月 1/ 木曜日 5 回	24 人

（※）他団体へ委託して開催

(8) 支援学校における放課後クラブ活動及び地域における障害者スポーツ振興事業

①特別支援学校における放課後スポーツクラブ活動

文部科学省スポーツ庁のモデル事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」

- ・対象：神戸市立特別支援学校の中学部・高等部の生徒（5校）
青陽灘高等支援学・灘さくら支援学校・青陽須磨支援学校・友生支援学校
いぶき明生支援学校
- ・実施期間：2024年10月～2025年2月
- ・実施回数：期間中 28 回
- ・参加数：68人（期間中、延べ430人）

②障がい者に配慮されたスポーツ施設における運動機会の提供

- ・対象：特別支援学校並びに特別支援学級生徒（中学生・高校生）
- ・場所：しあわせの村運動施設
- ・実施時期：11・12 月に各 1 回
- ・参加数合計：14人

(9) こうべ障害者音楽フェア 2024 ジョイフルコンサートの開催

障がいのある方やその家族に質の高い音楽を鑑賞していただくとともに、障がいのある音楽家の発表の場として、事業の趣旨に賛同された 11 の企業・団体からの協賛のもと、開催した。会場には車いす席と介助者席を設置し、聴覚障がい者のための要約筆記・手話通訳・磁気ループを配備した。18 回目となる今回は、障がいのあるピアニスト 1 名、バイオリン奏者 1 名、ミュージックベルグループ 1 組による上質な演奏と、今年の KOBE 2024 世界パラ陸上競技選手権大会の式典で演奏を披露した木村優一×太鼓楽団 大地の会による迫力ある太鼓演奏をおこなった。

実施日：令和 6 年 12 月 21 日（土）

場 所：神戸新聞松方ホール 来場者 508人

(10) 第 8 回こうべ障がい者芸術フェスタ HUG+（ハグ・プラス）展 2024 の開催

市内で芸術創作活動に取り組む障がい者から作品を公募し、芸術創作活動の発表の場として、展示環境が整った会場で応募作品 535 点を全て展示することを通して、文化芸術活動を通じた障がい者の個性と能力の発揮、社会参加の促進を図った。優秀作品は、事業の趣旨に賛同された 22 の企業・団体から協賛を得て顕彰し、最優秀賞受賞作品は、

毎年、実行委員会で買い取り、こうべ市民福祉交流センターをはじめ外部への展示を行っている。

また、期間中は神戸 2024 世界パラ陸上選手権大会の特別展示を行い、大会の認知度向上を図った。

展示期間：令和 6 年 9 月 14 日（土）～9 月 21 日（土）

場 所：県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー 本館 2 階大展示室

表 彰 式：令和 6 年 9 月 21 日（土）11：00～12：00

原田の森ギャラリー別館 4 階 401 号室

表 彰：最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点、審査員賞 4 点、入選 10 点、
奨励賞 4 点 計 24 点

来 場 者：1,744 人

点字図書館の運営

(1) 蔵書及び貸出し状況

蔵書数	点字図書	3,604 タイトル	14,242 巻
	録音図書 テープ図書	5,335 タイトル	28,425 巻
	デージー図書	4,940 タイトル	4,940 巻
	テキストデージー図書	110 タイトル	110 巻
貸出し数 (自館蔵書)	点字図書	309 タイトル	1,220 巻
	録音図書 テープ図書	187 タイトル	1,054 巻
	デージー図書	2,375 タイトル	2,375 巻

(2) サピエ図書館データのダウンロード状況(自館蔵書データのダウンロード数)

点字	1,548 タイトル	6,208 人
録音	893 タイトル	30,562 人
テキストデージー	96 タイトル	1,633 人

(3) 今年度蔵書図書製作数

点訳	パソコン	134 タイトル	375 巻
音訳	デージー	86 タイトル	86 巻
テキストデージー		17 タイトル	17 巻

(4) 定期刊行物(雑誌)の貸出し

点字雑誌	16 タイトル	延 42 人、 541 冊
録音雑誌 テープ	0 タイトル	延 0 人、 0 巻
デージー	32 タイトル	延 531 人、 5,352 巻

(5) 他館との相互貸借

①他館への貸し出し

点字	209 タイトル (824 冊)	録音テープ	131 タイトル (710 巻)
		デージー	1,557 タイトル (1,557 巻)

②他館からの借り受け

点字	85 タイトル (270 冊)	録音テープ	6 タイトル (46 巻)
		デージー	8,118 タイトル (8,118 巻)
		一般 CD	7 タイトル (7 巻)

(6) セレクトパック (SD カード) 貸し出し【新規】

図書館がピックアップしたデージー図書 5 作品を SD カードで貸し出す。

6 件 延 30 タイトル

(7) 「サピエ図書館」情報サービス

①利用者に提供した情報(端末からのデータ取り出しを含む)

点字打ち出し 10 タイトル、 5,924 ページ

(8) 定期刊行物等(雑誌)の製作

①点字(9 種)

・新聞連載「イイミミ」、週刊誌ヘッドライン、パソコン IT ミニ情報、NHK みんなの

うた、日経暮らしのミニ情報、ラジオ関西番組表、中医臨床、プロ野球全選手名鑑、新聞連載小説「陥穽」、「イン・ザ・メガチャーチ」

②録音(デイジー4種)

・今月の新刊本案内、f d、くすのき、正平調

(9) ボランティア養成講座の開催

コース	期 間	内 容	曜 日	講 師	回数	修了者
音訳	5月～3月	養成講座	毎週火曜	くすのきグループ	39回	17人
テキストデ イジー製作	9月～3月	養成講座	毎週金曜	かもめグループ	28回	12人

(10) 中途失明者対象の点字講習会の開催

期 間	曜 日	内 容	講師	回数	受講者
通年	火曜 午前・午後	点字の読み書き訓練	職員・市視協	44回	延 394人

(11) 読み書きサービス、対面朗読サービス(通年)

名 称	曜 日	内 容	件数	備考
読み書き サービス	火曜・金曜午後	パンフレット、手紙等代筆・代読	99件	41回 実施
対面朗読 サービス	随 時	小説、新聞等2時間	74件	74回 (要予約)

(12) プライベートサービス(個人依頼のあった物を点訳・音訳)

点訳 4件 116ページ 音訳(デイジー版) 4件 4巻

テキストデイジー化 1件(1冊) 1,172ページ

(13) 公的情報 (点訳)20件 1,215ページ

(14) 機器に関する情報提供・貸出等

名 称	実施月	内 容	人数等
機器相談	4月	パソコン、iPhone、リンクポケット等	17人
	5月	パソコン、iPhone、iPad等	13人
	6月	iPhone、センスプレーヤー、スマートスピーカー等	20人
	7月	iPhone、PTR3、PTN3等	16人
	8月	iPhone、PTR3、センスプレーヤー等	14人
	9月	iPhone、PTN3、OCR等	7人
	10月	iPhone、PTR2、PTR3等	15人
	11月	パソコン、iPhone、点字ディスプレイ等	9人
	12月	iPhone、PTR3、スマートスピーカー等	15人
	1月	iPhone、PTR3、点字ディスプレイ等	5人
	2月	iPhone、iPad、リンクポケット等	10人
	3月	iPhone、PTR2、点字ディスプレイ等	11人
	合 計		152人

PTN3=卓上型デイジー再生機、PTR3=卓上型デイジー録音再生機

リンクポケット=携帯型デイジー録音再生機、点字ディスプレイ=点字端末

名 称	期 日	内 容	人数等
出前機器講習	11 月 28 日	デイジー図書再生機の説明 iPhone・iPadの音声操作説明 テキストデイジーの紹介 ※須磨区役所内会議室で開催	4 人
福祉機器展	6 月 15 日	機器の展示・相談など(18 団体)	151 人
PTN3 貸出	通 年	デイジー図書体験用(短期貸出)	延 7 台

(15) 点字図書館だよりの発行

(年 6 回、各回 墨字版 274 部、点字版 185 部、デイジー版 132 部)

(16) 防災メールマガジンの配信 4 回

(17) 神戸市「広報紙 KOBE」「市会だより」の編集発行

区 分		発行回数(年)	送付数 (個人・団体)	発行部数
広報紙 KOBE	点字版	13 回	135	延 3,468 部
	デイジー版	13 回	121	延 1,532 巻
市会だより	デイジー版	4 回	23	延 89 巻

(18) 点字カレンダーの製作(2025 年版) 50 部

(19) ボランティア自主研究会・勉強会・研修会の開催支援(通年)

延べ開催回数 416 回、延べ参加者 3,462 人

点訳(6 種) 13 グループ、英語、理数、理療、校正、楽譜(303 回 2,711 人)

音訳(5 種) 医療、時代物、絵本、ボイス、音訳研修(74 回 507 人)

テキストデイジー(2 種) 校正、研究会(39 回 244 人)

(20) 館外での職員・ボランティア研修会

期 日	行事等	場所・行先	参加者
5/15、7/17、9/18、 11/20、1/15、3/19	近畿点字研究会	対面(日本ライトハウス情報文 化センター)・ZOOM 開催	19 人
6/27～28	新任管理者研修会	日本点字図書館(新宿区)	1 人
7/4～5	サピエ研修会(玉水記念会館)	ZOOM 参加	5 人
10/10～11	第 49 回全国視覚障害者情報提供 施設大会	福岡クローバープラザ (福岡県春日市)	1 人
10/30	ボランティア合同研修会	宇治市源氏物語ミュージアム (宇治市)他	34 人

(21) 利用者との交流会の開催

期 日	内 容	共 催	参加者
6 月 10 日	点灯虫グループ 50 周年記念利用者交流会 『時田直也さんコンサート』	点灯虫グループ	89 人
12 月 6 日	視覚障がい者向け映画 『三屋清左衛門残日録 一陽のあたる道』上映会	くすのきグループ	90 人

(22) 福祉体験・啓発事業(児童・生徒等の受入れ)

期 日	行事等	対 象	参加者
8 月 7 日	「目が見えないってどんなこと ～学ぼう障がいのこと～」	櫛谷児童館	13 人
8 月 9 日	「目が見えないってどんなこと ～学ぼう障がいのこと～」	清風児童館	21 人
①11/12 ②11/14～15	職場体験実習(トライやるウィーク)	①盲学校 ②布引中学校	① 1 人 ② 2 人
11 月 19 日	職場体験実習 (トライやるデイ)	兵庫県立視覚特別支援学校	2 人
11 月 7 日	図書館見学	兵庫県立総合衛生学院	25 人
2 月 25 日	公共図書館職員受入研修・見学	兵庫・名谷図書館職員	10 人
2 月 26 日	図書館見学	盲学校	2 人
3 月 6 日	図書館見学	西神中学校	5 人

(23) 点字啓発等事業(体験コーナー等行事・教室への指導者等派遣)

期 日	行事等	派 遣	参加者
7 月 19 日	神戸シルバーカレッジ健康・福祉コース授業	職員、点灯虫グループ	59 人
7 月 12 日	市視協・点字競技会	点灯虫グループ	15 人
7 月 29 日	清風公民館サマースクール	職員、点灯虫グループ	24 人
11 月 24 日	こべっこランド スマイルルーム	職員、かもめグループ	10 人
12 月 1 日	こべっこランド スマイルクラブ	職員、かもめグループ	7 人
2 月 24 日	兵庫図書館「体験しよう本のバリアフリー」	職員・かもめグループ	11 人
3/12～13	中央図書館「障害なく読書を楽しむために」	職員・かもめグループ	8 人

(24) 神戸アイセンターでの相談事業

神戸アイセンター病院を訪れる患者さんを対象に、毎月定例的に職員が赴いて iPhone・iPad の使い方などの機器相談会や生活相談会を開催した。

期 日	内 容	場 所	回数
第一金曜日	iPhone・iPad の使い方	神戸アイセンター・ビジョンパーク	11 回
第二月曜日	生活相談・サピエ相談	神戸アイセンター・ビジョンパーク	12 回

(25) 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者連絡会

「読書バリアフリー法」を踏まえ、視覚障がい者等の読書環境の整備に向けた取り組みを推進するため、障害福祉課、中央図書館、特別支援教育課、教科指導課、本館が集まり連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。

期 日	内 容	場 所	参加者
2 月 7 日	読書バリアフリー法を踏まえた情報共有・連携に向けた意見交換	点字図書館	10 人

障害者福祉基金を活用した助成事業

障害者福祉基金を活用し、障がい者のスポーツ・文化・福祉活動への助成、障がい者・児を対象とした事業所への助成を行った。

また、障がい者の自立と社会参加を目指し、「神戸ふれあい工房」を拠点に、障がい者施設・就労支援事業所の商品の紹介・販売を促進した。

(1) 文化・福祉活動への支援

① フェスピック事業助成

障がい者の社会参加及び地域とのふれあい交流を目的とした事業を実施する団体、事業所、施設に助成を行った。

令和6年度	71件	3,376,000円
令和5年度	69件	3,156,000円

② 障害者文化振興事業助成

障がい者の文化活動を通じて、社会参加や地域とのふれあい交流を推進することを目的とした事業を実施する団体に助成を行った。

令和6年度	621,684円
令和5年度	858,224円

(2) 機能訓練及び就労・自主製品開発改善等のための助成事業（清水事業助成）

知的障がい者（児）の福祉向上を目的とした事業を実施する団体・施設に助成を行った。

令和6年度	58件	3,118,000円
令和5年度	50件	2,777,000円

(3) その他の助成

神戸ふれあい工房の自主製品販売運営費として障害者福祉基金から助成した。

令和6年度	1,004,902円
令和5年度	1,100,303円

(4) SOCIO-R00TS 事業助成

三菱電機 SOCIO-R00TS 基金からの寄付を活用し、障がい児・者を対象に緊急を要する設備の改修や環境整備に必要な備品の購入、通所施設において支援者の技能習得等を目的とする研修に対して助成した。

令和6年度	4件	1,302,000円
令和5年度	0件	0円

(5) 次世代育成・障害者社会参加支援事業助成

障害者福祉基金を活用して、障がい者の社会参加支援を目的としてバスを利用した事業に対して、バスの利用料金の一部を助成した。

令和6年度	14件	280,000円
令和5年度	17件	340,000円

神戸ふれあい工房の運営

神戸ふれあい工房に加入している神戸市内の 54 施設・事業所の商品を取り扱った。令和 5 年 3 月に開店した店舗は、直接市民の方に商品を見ていただく機会になり、令和 6 年度に比べて売上が増額した。

(1) 外商販売 7,017,009 円

- ①「夏の特選ギフト」「クリスマスギフト」「バレンタイン・ホワイトデーギフト」を実施し、神戸市等に対し周知依頼した。
- ②企業等から景品や記念品等の注文を受けて販売した。

(2) 出張販売 484,370 円（7 件）

企業や地域団体のイベント（元町夜市、ふれあいまつり）や、世界パラ陸上、福祉関係者のつどい等で出張販売を実施した。

(3) 店舗販売 3,220,956 円

- ①カフェ「Link tree」の併設店舗にて販売した。
- ②店舗の敷地内を使用して、クリスマスマーケットを実施した。

(4) 広報啓発

①ホームページの運用

kViewer を利用した商品紹介と、イベントやギフト商品等について発信した。

②Facebook・Instagram の運用

イベントやギフト商品等の情報を掲載した。（投稿回数 37 回）

③販売促進ツール

神戸ふれあい工房に登録している施設・事業所向けにパッケージに関する勉強会を実施した。

④マスコットキャラクター「ふわぼん」を使った啓発活動

「ふわぼん」を利用した消耗品、備品の活用や、事業所紹介「ふわぼん通信」をギフトチラシの裏面に掲載し、SNS で発信した。（3 回）

こども・子育て支援

(1) こべっこランドの運営

神戸っ子すこやかプラン 2029 に基づき、神戸市唯一の大型児童センターとして、神戸ならではの子育てが楽しめる環境づくりを目的に、こどもが安全に思う存分遊ぶことができるあそび場の整備や健全育成事業・発達支援事業・啓発連携事業を進めるとともに、子どもに寄り添い支える人材の育成・支援として、市内 120 館の児童館支援に取り組んだ。

令和 6 年度はこべっこランドの特性を活かした事業として、幅広い世代の利用の促進、地域団体・企業・大学との連携、共同事業体のミズノスポーツサービス株式会社と合同で実施するスポーツ体験教室の充実等を行った。

	開館日数	年間入館者数	平均入館者数	入館者数累計
令和 6 年度	306 日 (1 日閉館)	337,820 人	1,104 人	12,312,466 人
令和 5 年度	307 日 (2 日閉館)	498,437 人	1,624 人	11,974,646 人
令和 4 年度 ※2 月 11 日 リニューアルオープン	292 日 (16 日閉館)	278,859 人	955 人	11,476,209 人
内 (旧施設)	248 日	155,328 人	626 人	—
訳 (新施設)	44 日	123,531 人	2,808 人	—

①健全育成事業

0 歳から 18 歳未満のすべての児童を対象とした児童福祉施設として、幅広い年代に向けた健全育成事業を実施した。令和 6 年度はこどもが健やかで安全・安心に成長できる施設環境の整備、こどもの意見を事業や運営に反映させることに重点的に取り組んだ。

ア. こどもの意見を取り入れた事業

こどもの視点に立って意見を聞きイベント等を進めていくとともに、こどもの成長に合った事業のさらなる充実を目指した。また、新たに乳幼児親子向けイベント「平日カーモたいむ」を毎日提供することで在宅育児支援を行った。

- ・こべっこミュージックらぶ
- ・中高生のレンタルスタジオ☆Day
- ・平日カーモたいむ
- ・休日カーモたいむ
- ・こどもスタッフが意見を出して作り上げる「こべっこあきまつり」の実施

イ. 多様な利用形態による事業

- ・Instagram でのイベント情報の発信（フォロワー数約 2,800 人）
- ・こども会議を開催し、「こべっこあきまつり」の企画運営に参画
- ・ミズノスポーツプラザ神戸和田岬を会場とする「テニス体験教室」「ボルダリング体験教室」の実施

ウ. 中学生・高校生の視野を広げ、前向きな気持ちを育てる事業の実施 (中高生ルームの充実)

- ・意見交換の場としてルーム内にホワイトボードを設置
- ・ルーム内に Wi-Fi 環境を整備

(中高生プログラムの充実)

- ・中学生プログラム

ボルダリング体験教室、建築家体験、パティシエ体験等の実施

- ・中高生によるこべっこ科学フェスタ、コンサート（吹奏楽、和太鼓）の実施
- ・こべっこ中高生ランド

ホールを中高生専用とし、運動・ゲーム・ドラム演奏等を楽しむ場を提供
エ. 体力増進事業の充実

運動事業にノウハウを有するミズノスポーツサービス株式会社が、楽しく体を動かすプログラムを実施することで、体力増進事業の充実を図った。

- ・はじめて！チャレンジ教室（跳び箱、鉄棒、走り方）
- ・親子 de 運動あそび

【健全育成事業一覧】

◆中高生対象プログラム ◎高校生ワークショップ ◇企業・団体・学校との連携事業
【あそび】

わくわく☆ゴールデンウイーク (迷路、アスレチック) (4回)	4,514人	ブロックらんど (117回)	14,326人
カーモバースデー (16回)	418人	平日カーモたいむ (182回) 2,300組	5,134人
かば☆うま遊びうたライブ (2回)	327人	休日カーモたいむ (12回) 502組	1,042人
ブロックらんどワークショップ (7回)	503人	こうべのじどうかん大集合 (1回)	813人
あそびチャレンジ (5回)	976人	◆中高生ランド (12回)	163人
		計 358 回	28,216人

【体力増進】

はじめて！チャレンジ教室（鉄棒、 跳び箱、走り方） (6日12回)	323人	◆ボルダリング体験教室 (3回)	26人
親子 de 運動あそび (2日5回)	72人	ミッションプログラム (1回)	101人
テニス体験教室 (2回) 14組	28人		
		計 23 回	550人

【料理】

体においしいスイーツクッキング (2日6回)	135人	祖父母クッキング (2回)	50人
チョコマフィン (2日6回)	175人	親子クッキングハロウィン (2回)	54人
和菓子（ねりきり） (2日6回)	190人	◆調理師体験 (2回)	40人
カーモクッキー (2日6回)	170人	◇モロゾフカスタードプリンづくり (1回)	22人
カーモパン (2日6回)	198人	◇老祥記の豚饅づくり (2日4回)	86人
こいのぼりクッキー (2日6回)	188人	◇中央卸売市場 ぶどうのパフェ (1回)	28人
おはぎ (2日6回)	168人	柿のミニケーキ (1回)	34人
おせちフルーツきんとん (2日6回)	169人	いちごのサンドイッチ (1回)	32人
		計 62 回	1,739人

【造形・美術】

◇芸工大ワークショップ（2日4回）	1,520人	◆木工ランタンづくり（1回）	21人
◇芸工大ウッドクラフト（11回）	2,561人	いつは先生特別プログラム（10回）	2,615人
◆建築家体験（2回）	39人	計28回	6,756人

【音楽】

ミュージックくらぶ（10回）	122人	みんなでドレミ（6日36回）	1,306人
ミュージックくらぶコンサート（1回）	179人	ファミリーミュージック☆Day（98回）	5,307人
◎北須磨高校コンサート（2回）	496人	中高生のレンタルスタジオ☆Day（29回）	35人
おやこでドレミ（5日10回）105組	225人	計188回	8,147人
スプリング♪ドレミコンサート（2回）	477人		

【文化】

人形劇公演（クラルテ）（2日4回）	794人	◆めざせ映像クリエイター（1回）	13人
◎ニューイヤード太鼓！（2回）	324人	こども会議（5回）	29人
児童福祉文化財サーカスの灯（1回）	104人	こべっこあきまつり（2日3回）	938人
こべっこ寄席（1回）	159人	計17回	2,361人

【環境・科学】

◎中高生による科学フェスタ（1回）	417人	こべっこ昆虫展（8回）	9,507人
◆薬剤師体験（1回）	24人	ネイチャーゲーム（4回）	122人
		計14回	10,070人

回数計 690回 57,839人

②発達支援事業

障がい児や発達がゆっくりな子どもとその保護者への助言や支援を目的とした事業を実施した。また、子育て中の保護者、保育や療育の現場で活躍する専門職、ボランティアに対して各種教室・講座・研修を行った。

【発達支援プログラム一覧】

事業名・講師	対象	人数
極低出生体重児とその家族のための子育て教室 －YOYOクラブ－ 畠山 美穂 甲南女子大学教授	出生体重 1,500g 未満の修正月齢 3ヵ月～概ね2歳半の乳幼児とその家族	総数 30組 延べ 232人
学齢期・思春期子育て講座 倉石 哲也 武庫川女子大学教授	概ね5歳～15歳のこどもの対応に悩んでいる保護者	・学齢期講座 58期7人 延べ28人 59期9人 延べ39人 ・思春期講座 28期5人 延べ17人 29期7人 延べ25人 ・就学前講座 24期5人 延べ13人

	出張講座 (魚崎児童館)	1 館 2 回 延べ 14 人
	日曜講座 (不登校・いきしぶり支援)	1 回 24 人
親と子のふれあい講座 大島 剛 神戸親和大学教授	乳幼児と保護者	・赤ちゃん講座 ・1 歳半講座 195 組 延べ 429 人
	診断を受けているか療育手帳を持っている幼稚園・保育所年中・年長児と保護者	・家族支援講座 1 組 7 回 延べ 7 人
	夜尿児と保護者	・おねしょ講座 3 組 5 回 延べ 19 人
障がい乳幼児親子教室 七野 友子 言語聴覚士・公認心理師	0 歳～3 歳の ダウン症児と その保護者	・グループ指導 17 組 35 回 延べ 571 人 ・個別指導 14 組 11 回 延べ 94 人 ・言語指導 30 組 30 回 ・抱っこ法 2 組 2 回
感覚運動指導教室 中林 稔堯 神戸大学名誉教授	3 歳～10 歳の知的障がい児、発達障がい児、ダウン症児等重複障がい児	・感覚運動指導（前期）12 回 延べ 129 人 ・感覚運動指導（後期）12 回 延べ 99 人 ・教育相談 12 回 12 人 ・感覚運動指導（エール）12 回 延べ 183 人
	保育士・児童館職員等	・拠点児童館出張講座 3 館 6 回

③居場所づくり事業

ア. きらきらルームの実施

土曜日（月 1 回）予約制で発達がゆっくりなこどもの居場所として、年間 12 回実施した。「自由あそび」と講師を交えて保護者同士が交流や情報交換ができる「みんなでトークタイム」を行った。

対象児	大人	兄弟姉妹	計
116 人	182 人	80 人	378 人

イ. スマイルクラブの実施

発達がゆっくりな小学 4 年生～中学生までのこどもと家族を対象に、パソコン・運動・自由あそび等を取り入れた年齢に応じたプログラムを実施した。

- ・プログラミング教室（2 回）19 組 42 人
- ・キッズリズムボクシング（1 回）6 組 13 人
- ・スマイルルーム（3 回）11 組 26 人
- ・サンドイッチ教室（1 回）13 組 26 人
- ・パーカッションにチャレンジ（1 回）4 組 8 人

ウ. 障がい児保育ゼミ

保育所（園）、幼稚園、認定こども園、児童館等で障がい児を担当している職

員が事例発表やディスカッションを通じて、①発達評価についての理解・方法 ②園・施設での適応状況についてのとらえ方・考え方 ③保護者の障がい受容レベルの理解と対応 ④障がいについての基本的な考え方 ⑤保護者の養育態度と担当職員との関係のあり方等を学ぶ実践的な研修を6回開催した。令和6年度は14人の参加であった。

エ. 臨床心理士によるふらっと子育て相談及び休日子育て相談

身近な遊び場であるこべっこランドの特性を生かし、水曜日及び日曜日（他の相談機関が休み）に対応することで、保護者の育児疲れや子育て不安の軽減、虐待予防に努めた。ふらっと子育て相談は年間10回、休日子育て相談は年間11回行った。

オ. 発達障がいセミナー（市民講座・専門講座）

発達支援プログラムの講師陣を中心に、市民ボランティア対象の講座（6講座8回）を開催し、こどもと家族の支援に繋げた。また、学校園・児童館・放課後等デイサービス職員等の専門職を対象の講座（4講座10回）を開催し、保育や療育の現場でこどもたちに関わる職員の資質向上を図り、延べ942人の参加があった。

カ. おあしすルームの実施（きょうだい児支援）

孤独感を抱えがちな障がいのあるこどものきょうだいと家族のための居場所づくりを行った。年間3回実施し、18組60人の参加があった。

キ. パパママサポートセミナーの実施

両親が一緒に参加することで、お互いの思いを共有でき、より良い親子関係のヒントが見つかるようこどもへの関わり方を学んだ。5回実施し、3組17人の参加があった。

ク. 孫を知ろう、支えよう

発達障がいについての理解を深め、祖父母のこどもや孫とのコミュニケーションに役立つかわり方のポイントを学んだ。2回実施し、9人の参加があった。

④啓発連携事業

ボランティア活動の推進を通してボランティアに対する理解を深める啓発事業を実施した。

【ボランティア登録数】

ボランティア名	登録数	延べ活動人数
シン・こべっこランドボランティア	34 人	166 人
大型イベント高校生ボランティア	市内3校と連携	117 人
療育サポーター	20 人	194 人
合 計	54 人	477 人

神戸市内の小学生が福祉への関心を持ち、成長できるよう、多文化共生や障がいに対する理解を深める連携事業を実施した。

【企業・団体・学校との連携事業】

風見鶏の館を探検してみよう	51 人	シン・こべっこランドボランティア	
こどもフェスタ IN 和田宮	461 人	アクリスマスイベント (2 回)	591 人
兵庫運河祭	240 人	こべっこ BOSAI 教室	
こどもフェスタ (しあわせの村)	826 人	家族で楽しくまなぼうさい	730 人
兵庫工業高校テクノサマー教室	80 人	防災食お試しデー (3 回)	57 人
兵庫工業高校家庭科保育実習		こべっこマルシェ	523 人
(2 回)	47 人	ユニバーサルスポーツ (3 回)	481 人
		計 17 回	4,087 人

⑤地域の子育て支援

ア. 市内の児童館支援

- ・発達障がい児等育児支援（療育巡回）

市内児童館等の放課後児童クラブに在籍している発達障がい児等、配慮の必要なこどもに、より良い支援ができるようこべっこランドの臨床心理士が巡回と放課後児童クラブの現場で、対象児の観察と発達の特性に合った関わり方等を助言する職員研修を行った。16 施設 25 回巡回し、1 月には 3～4 館合同のグループワークでケース検討会を 5 回行った。

- ・児童館派遣・児童館支援事業

児童館、学童保育コーナーに講師等を派遣し、遊びや子育て支援のプログラムを実施することで、児童館活動の充実を支援した。

内 容	参加人数
出張おやこでドレミ (10 日 10 回)	207 人
サーカス体験ワークショップ (3 日 6 回)	202 人
計 16 回	409 人

イ. 拠点事業を実施する児童館への支援

発達支援担当の職員と発達支援プログラムの講師陣が連携して拠点事業実施館へ出向き、子育て専門講座、保育士や施設職員等への指導者向け講座を実施した。また、発達がゆっくりな乳幼児親子の居場所（J-café）に臨床心理士を派遣し、拠点児童館事業の充実を図った。（5 館 15 回）

ウ. 児童館職員研修

児童館で勤務する職員のさらなる資質向上を図るため、市立の全児童館を対象に職員研修を実施した。また、スキルに応じたステップアップが図られるよう、外部研修も活用し、一部外部研修への受講助成と、情報提供を積極的に行った。

内 容	受講人数
防犯・こどもの安全研修	139 人
放課後児童支援員新任研修	104 人
児童館指導員新任研修	41 人

ソーシャルワーク研修	84 人
児童館指導員研修（実技）	102 人
児童館職員研修（館長・コーナー長・分室長）	140 人
児童館職員研修（指導員）	103 人
市民救命救急士講習	93 人
実技研修（放課後児童指導員）	123 人
市民福祉大学受講助成	10 人
外部研修助成等（児童厚生員等研修会等）	14 人
合 計	953 人

(2) 児童館の運営

厚生労働省による「児童館ガイドライン」及び、「神戸市子ども・子育て支援事業計画（神戸っ子すこやかプラン 2024）」等を踏まえ、児童館運営の一層の充実を目指し、①児童健全育成事業の推進（遊びを通した子どもの発達の増進と安定した日常生活の支援）、②子育て支援事業の推進（子育て家庭への支援）、③地域連携の推進・地域とのネットワークづくりを通して、地域に身近な子育て支援拠点である児童館の管理運営に取り組んだ。

また、令和 2 年度から指定管理者として運営してきた北区・須磨区の児童館については、令和 6 年度末の指定管理期間の終了に伴い、神戸市による公募の結果、6 館（すずらんだい、ひよどり台、大沢、八多、長尾、若草）については引き続き指定管理を受け、その他児童館（有野、からと、北五葉、板宿、東須磨、高倉台、妙法寺、横尾、落合）の 9 館は令和 7 年度より新たな運営事業者に移管した。

	受託館数	延べ利用人数
令和 5 年度	児童館 43 館（内 拠点児童館 5 館、 中高生の活動拠点事業 1 館） 学童保育コーナー 29 コーナー、 1 分室（内 放課後こどもひろば 6 か所）	児童館 755,795 人 学童保育コーナー・分室 360,001 人
令和 6 年度	児童館 38 館（内 拠点事業実施館 5 館、 中高生の活動拠点事業 1 館） 学童保育コーナー 25 コーナー、 1 分室（内 放課後こどもひろば 6 か所）	児童館 714,966 人 学童保育コーナー・分室 297,379 人

①子ども育成事業

日々の遊びや様々な行事を通して、子どもの健全育成を図るとともに仲間づくりや心と体の育ちを支援した。また、楽しく魅力ある児童館になるよう児童館内外の環境整備に努め、子どもたちに豊かな遊びを提供した。

ア．季節行事（夏まつり、ハロウィン、クリスマス会等）、運動あそび（なわとび検定、卓球大会等）、ゲーム（オセロ、ボードゲーム等）、創作あそび（工作、カプラ、ビーズ等）、伝承あそび（こま、けん玉、なわとび、あやとり、お手玉、かるた等）、音楽あそび（ミュージックベル、銭太鼓等）、絵本の読み聞かせ、紙芝居・エプロンシアター等の鑑賞。

イ．ふれあい交流事業

・高齢者とのふれあい交流事業

児童館を拠点として、児童と高齢者が地域ぐるみで交流することにより、児童に高齢者へのいたわりや敬愛の念、思いやりの心など、情操を高めることを目的に実施し、施設への訪問やプレゼントの贈呈を通して交流を行った。（36 館・4 コーナー）

・自然とのふれあい交流事業

環境や自然について楽しみながら学び、エコ（環境）活動を通して子どもたちが人と自然のかかわり、環境問題について、関心や理解を深める事業を実施した。

（37 館・6 コーナー）

ウ．点字図書館と児童館による福祉体験協働事業【再掲】

視覚障害者の理解を深めるため、小学生を対象に、視覚障害者体験・点字体験などを体験するプログラムを実施した。（2 館）

エ．児童館子どもの居場所づくり（社会福祉推進基金を活用）

学童保育クラブ登録以外の子どもが、家庭に長時間一人で過ごすことがないよう、児童館を活用して子どもの居場所づくりを実施した。

（実施プログラム：子どものおべんとうひろば、学習支援、食に関する体験）

実施館：生田川、神戸諏訪山、湊川、長尾、高倉台、板宿、有瀬

オ．中高生の活動拠点事業

中高生の居場所として、また「ユースステーション北」としての機能も併せフリースペースの提供等、中高生事業等を実施した。

実施館：すずらんだい（中高生延べ利用人数 3,284 人）

カ．垂水児童館日曜開館

おやこふらっとひろば垂水の開設日に合わせて、新たに児童館も令和 6 年度から毎月第 4 日曜日に一般利用者へ開館した。子育てコミュニティ事業も同時に開催し、地域での子育て支援を充実と親子の利用促進につながった。

キ．児童館の強み・特色を活かす仕組みづくり（インセンティブ事業）

新たに地域の人材や団体等と連携や協力をして、地域の特色や住民ニーズ、児童の意見を反映した、児童館の独自プログラムを実施することを通して、地域の子育て支援の充実を図った。

（実施メニュー：地域人材を活かした子育て支援、子育て中の保護者の自主的な集まり、父親や多世代の家族向けの取り組み、夏休みの居場所づくり、外遊び・プレイパーク、豊かな体験の提供、中高生プログラム、児童館独自提案）（23 館）

ク．性被害防止に向けた取り組み

神戸市からの補助を受けて、こどもの性被害防止対策として、プライバシー保護のパーテーション、簡易扉の設置や保育状況の確認等に用いる防犯カメラ等の設置・増設を行った。（12 館・4 コーナー）

②子育て支援事業

ア．乳幼児向け親子プログラム

a) 子育てチーフアドバイザーの任命

新たに乳幼児を中心とした子育て支援の責任者として、児童館事業に従事する常勤職員のうち 1 名を子育てチーフアドバイザーに任命し、相談体制の強化・充実を図った。（全館）

b) 乳幼児向け親子プログラムの毎日実施

新たに月～土曜日まで、乳幼児の親子が過ごせる取り組み（プログラムやメニュー）を実施するとともに、いつでも利用できる施設としての周知を図った。（全館）

c)授乳スペースの整備

新たに授乳スペースやおむつ替えの場所を確保し、利用者が気兼ねなく利用できる設備（おむつ交換マットや間仕切りカーテン、椅子等）を整えた。（16 館）

イ．放課後児童クラブ（学童保育）

※61 箇所実施・3 児童館（生田川、すずらんたい、長尾）は学童保育非実施。

保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供し、子育てと仕事の両立支援や放課後における児童の健全育成を行った。

	実施箇所数	登録児童数 (R7.3月)	年度平均 登録数
児童館	35 館	2,147 人	61 人
学童保育コーナー・分室	25 コーナー・1 分室	1,500 人	58 人
合計	61 箇所	3,647 人	60 人

a)学童保育コーナーの新設（有野コーナー、駒ケ林コーナー）

b)高丸学童保育コーナーの移転による施設の拡充（小学校内から校庭の専用施設へ）

c)学童保育リーダーの配置拡大（登録児童数に関わらず配置へ）

d)過密解消のため地域福祉センター等の一時利用（魚崎、妙法寺、東須磨）

e)夏休み限定の学童保育受け入れ（北五葉コーナー、高倉台、押部谷、岩岡コーナー）

f)長期休業中の昼食提供（湊川、中道、兵庫、御崎、ひよどり台）

③放課後こどもひろば事業（6 か所実施）

放課後児童クラブ（学童保育）と神戸っ子のびのびひろば（放課後子供教室）を包括的に運営した。また和田岬、鈴蘭台においては、夏休みの運営時間を午後から午前に変更して児童の受け入れを行った。利用児童数 757 人（人）

実施場所（小学校）	灘	和田岬	鈴蘭台	横尾	高丸	長坂	合計
延べ参加児童数	3,617	3,742	1,691	2,115	4,533	10,488	26,186

④児童館子育て相談事業

子育てチーフアドバイザーの配置により相談件数が約 3,000 件増加した。

(R6 : 11,023 件 R5 : 8,356 件)

⑤拠点事業（旧：拠点児童館事業）

児童問題に関する専門性を有する児童館 5 館を「拠点事業実施館」と位置づけ、こべっこランドと連携した子育て専門講座や指導者・従事者向け講座を継続事業として実施した。また、発達の気になる子どもと保護者の支援等に取り組んだ。

令和 6 年度からの子育てチーフアドバイザー全館配置に伴い、全児童館が地域の拠点となる役割を担えるよう体制を整えていく。

ア．こべっこランドと連携した子育て専門講座

講座	実施館	参加者数
赤ちゃんとのふれあい講座	魚崎・河原・有野・落合・垂水	82 組

イ. 指導者・従事者向け講座

講座	実施館	参加者数
保育現場で活かす感覚運動あそび	河原・落合	延べ77人
保育現場で活かす インリアル・アプローチ	魚崎・有野・垂水	延べ67人

ウ. 発達の気になる子どもの居場所（Jidoukan-cafe（通称：ジェイカフェ））

発達の気になる子どもと保護者が安心して過ごせる場の提供や、保護者同士の交流を図ることを目的として実施した。

エ. 自主事業（地域特性・ニーズをふまえた事業）

- ・防災事業（魚崎）
- ・赤ちゃんすこやか（河原）
- ・中町マルシェ（有野）
- ・落合ファミリーひろば（落合）
- ・すいすい☆子ども cafe（垂水）

⑥キャナルタウンおやこひろば

就学前の乳幼児とその保護者が、ゆったりと過ごせる居場所の提供を行った。

ア. 発達の気になる乳幼児と保護者を対象とした支援事業（駅前 J-cafe）

イ. 助産師による子育て相談（子育てシェアタイム）

ウ. 健康ライフプラザ（運営者：株式会社 COSPA ウェルネス）との連携事業（びよんびよんたいむ）年2回

⑦おやこふらっとひろば垂水

神戸常盤大学に運營業務を委託し、専門資格を持った支援スタッフを常駐させ、専門的な子育て支援を行った。

[利用状況] (人)

利用者種別	0歳	1歳	2歳	3歳以上	大人	その他の利用（講座等）	合計
年間利用者数	2,378	7,672	4,755	6,848	20,063	14,333	56,049

ア. 子育て支援事業

- ・おやこであそぼう（午前1回、午後1回）4,892名
- ・ごろ寝アート（月1回）
- ・制作イベント（月1回）3,297名
- ・子育て講座（食育セミナー）36名
- ・親子で楽しむコンサート 417名
- ・子育てイベント 177名

イ. 子育て相談事業

親の子育てや不安を和らげるとともに、心身ともに健全な乳幼児の育成を図るため、親の抱える育児相談に応じでアドバイスを行った。年間対応数 96名

ウ. 連携事業

他の子育て支援施設と情報を共有し、事業の活性化を図った。

- ・垂水図書館との連携

- ・ヤクルトとの連携「おなか元気教室」の開催 参加者 33 名
- ・ボランティアの活用
- ・神戸常盤大学の教員、学生との連携
- ・垂水児童館との連携

⑧子育てコミュニティ育成事業（児童館日曜日等開放）

地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」等が実施する児童館の日曜日等の開放や地域子育て行事などの「子育てコミュニティ」事業の支援を行った。

（38 館：全館実施）

⑨児童館実習生の受入れ

児童厚生 2 級指導員資格の取得を希望する学生の実習を受け入れ、福祉人材育成を行った。（8 館、13 人）

(3) 地域の子育て支援

子育てしやすいまちづくりをめざし、身近な地域で子どもたちの育ちを支援できるよう、各区に子育てコーディネーターを配置し、こどもの居場所づくり、地域の子育て人材の育成及び関係機関や子育て支援者等とのネットワークづくりの推進を行うとともに、児童館及び学童保育施設（以下、「児童館等」という。）の運営支援を行った。

①地域の子育て支援事業推進業務

ア．こども・子育てサポート事業

神戸市内の全ての区において、以下の業務を行い、子育て人材の発掘・育成や地域におけるこども・子育てネットワークづくりの充実を図り、「子育てしやすいまちづくり」を推進した。

- ・主に 0～1 歳児の子育て世帯や出産前後の妊産婦へのサポートを、児童館等の施設、子育てサークル等の地域子育て支援活動、地域の子育て支援者及び関係機関と連携し、推進した。
- ・地域におけるこども・子育てニーズや課題に応じた支援を行うために、子育て親子の交流促進や地域の子育て関連情報の提供と相談・援助体制の整備を実施した。
- ・児童館における乳幼児子育て支援事業が実施しづらくなる小学校の長期休業期間中に、地域ニーズに応じて子育て親子の交流の場の提供を行った。

イ．児童館等の支援業務

a．巡回支援・相談支援

児童館等の地域における子どもの健全育成及び子育て支援業務の活性化等において、巡回により現状把握を行うとともに、必要な支援・相談を行った。

巡回訪問回数 233 回（指定管理者の変更から 3 年以内の児童館等の巡回含む）

また、管理運営者から個別に相談があった場合は、これに応じ、必要な支援を行った。

b．登録センターK0BE（放課後児童支援員等登録センター）の運営

市内学童保育施設への就労希望者の登録や各施設による登録者の閲覧等、学童保育施設の採用活動への必要な支援を行った。

- ・名称変更と登録対象職種の拡大

これまでの放課後児童支援員に加えて、児童館指導員、子育てチーフアドバイザー

ザーへの就労につながる登録ができるよう機能拡充を行い、名称を登録センター KOBÉ に変更した。

・就労希望者の登録・登録者の閲覧

登録者数 215 人 採用決定者数 47 人

来所閲覧数 134 件 ホームページ閲覧数 3,626 件

・登録情報閲覧サテライトの設置

北区社会福祉協議会、西区社会福祉協議会に登録者情報の閲覧サテライトを設置し、令和 6 年 11 月 25 日より閲覧を開始した。

・WEBサイトの開設

WEBサイトを開設して、児童館指導員、子育てチーフアドバイザー及び放課後児童支援員の業務をPRするとともに、児童館や学童保育施設からの求人情報を掲載できるようにした。

ウ. 児童館等職員相互の連携推進

各区の児童館等の職員を対象とした研修の実施と連絡会の開催等、意見交換や情報共有が行える場を設け、職員同士のつながりの構築を図った。

a. 児童館職員研修の実施

事業運営や今日的な課題への対応力の醸成を図るための研修を実施した。

テーマ	講師	
乳幼児期（0，1 歳児）の 子育て支援 （講義とグループワーク）	全区	栗木 剛 氏 （motto ひょうご）
こどもたちの言葉や気持ちの 引き出し方～意見を言いやす い環境づくりを学ぶ～ （講義と体験学習）	全区	山本 タクシ 氏 （宝塚ブレインアカデミー）

b. 連絡会・情報交換会等の実施

喫緊課題に関する情報提供、研修のフォローアップ、職員同士の相互交流、館期間との連携推進等を行うための連絡会等を開催した。

区	内容（回数）
東灘区	合同館長会（10 回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（1 回）、 その他の連絡会・情報交換会等（3 回）
灘区	合同館長会（2 回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（1 回）、 その他の連絡会・情報交換会等（4 回）
中央区	合同館長会（2 回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（1 回）、 その他の連絡会・情報交換会等（4 回）
兵庫区	合同館長会（2 回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（1 回）、 その他の連絡会・情報交換会等（3 回）

北区	合同館長会（２回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（１回）、
北区（北神）	その他の連絡会・情報交換会等（６回）
長田区	合同館長会（２回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（１回）、 その他の連絡会・情報交換会等（３回）
須磨区	合同館長会（２回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（１回）、 その他の連絡会・情報交換会等（３回）
垂水区	合同館長会（２回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（１回）
西区	合同館長会（１回）、子育てチーフアドバイザー連絡会（１回）、 その他の連絡会・情報交換会等（２回）

②こどもの居場所づくりの全市展開推進事業

子どもたちが放課後等に食事や学習、団らんなどを通して安心して過ごすことができる居場所づくりを実施する地域団体等に対して、活動の拡充のための総合的な支援及びコーディネートを行うことにより、地域における子どもや子育て世帯の見守りの充実を図った。

また、こどもの居場所が多世代交流や地域の子どもたちへの経験や出会いの提供の場となり、地域課題への包括的なアプローチの促進を行った。

ア．こどもの居場所づくり支援

こどもの居場所づくりを実施している団体の活動状況を把握し、活動継続に必要な支援につなげるとともに、新たにこどもの居場所づくりを実施しようとする団体へは、実施場所の調整、地域団体等との顔つなぎ、必要な情報の提供、広報支援等、各種支援を行った。

イ．コーディネート機能の強化

こどもの居場所支援のための職員を配置し、事業担当者連絡会での課題や成功事例の共有等によりし、支援方法の拡充を図った。

居場所の実施個所数及び設置小学校区数については以下のとおり。

年 度	こどもの居場所 実施個所数	こどもの居場所がある 小学校区数	小学校区における 設置率
令和６年度（３月末）	308 か所	151 学区	92 %
令和５年度（３月末）	257 か所	148 学区	87 %
令和４年度（３月末）	183 か所	127 学区	78 %
令和３年度（４月当初）	105 か所	66 学区	40 %

ウ．企業との協働

コープこうべとの協定により、各区店舗が寄付物品の配送拠点となり 51 件延べ 271 団体へ寄付物品受渡しを行うとともに、フードドライブにより集まった寄付物品の提供をいただいた。

新たな食材等の支援のしくみとして(株)ライフコーポレーションと協定を結び、パッケージ破損等で販売できなくなった商品を、神戸市内 9 店舗から毎月継続的に

ご寄附いただいた。

エ. こどもの居場所にかかるプラットフォームの運営

ポータルサイト「こども地域応援ネットワーク KOBE」の運営では、寄附物品マッチングシステムの運営を行い、補助金情報や研修・講習会など、活動団体が継続支援に資する有益な情報を提供し、運営支援の充実を図った。また、寄附物品マッチングシステムを活用し、90 件の寄附物品を受入れ、延べ 690 団体へ寄附物品の受渡しを行った。

オ. 善意銀行を活用した体験プログラム

善意銀行に寄付された寄附金を活用し、こどもの居場所を利用しているこども達を対象に体験プログラムを開催した。

実施日：令和 7 年 3 月 8 日（土）

場 所：神戸新開地・喜楽館

内 容：「こどもの居場所寄席」 講師 落語家 桂 福丸 氏

参加者：95 名

(4) 神戸市子ども会連合会(市子連)事務局の運営

地域の子ども会活動の活性化を図るため、事務局の運営を神戸市子ども会連合会から受託し、神戸市への補助金申請や市子連理事会、常任理事会の運営を中心に活動をサポートした。

【子ども会の組織状況】

年度	単位子ども会数	構成員数
令和 6 年度	116	6,180 人(会員数 4,629 人、指導者等 1,551 人)
令和 5 年度	128	6,474 人(会員数 4,796 人、指導者等 1,678 人)
令和 4 年度	129	6,332 人(会員数 4,713 人、指導者等 1,619 人)
令和 3 年度	135	6,810 人(会員数 4,940 人、指導者等 1,870 人)
令和 2 年度	149	7,603 人(会員数 5,505 人、指導者等 2,098 人)

【市子ども会連合会の開催行事】

事業名	実施日時・場所	参加者(人)
歴史ウォーク	日時:令和 6 年 10 月 6 日(日)10 時～14 時 場所:中央区内(メリケンパーク⇒海軍操練所跡⇒神戸税関⇒みなとのもり公園)	21 名
60 周年記念事業～遊びと学びの子ども会デー	日時:令和 6 年 12 月 8 日(日)13 時～16 時 場所:ハーバーランドスペースシアター 内容:60 周年記念式典、子ども会による展示・ステージ	約 1,000 名
第 26 回神戸市子ども会 絵画コンクール	(表彰式) 日時:令和 7 年 2 月 1 日(土)10 時 30 分 場所:こべっこランドこべっこホール	応募数 98 点

	(入賞作品展示) 日時:令和7年2月20日(木)~3月5日(水) 場所:さんちか花時計ギャラリー	
--	--	--

(5) 法人合併に伴う児童館事務の一元化

区社協で行っていた児童館等における各種事務の効率化をクラウドシステム等を導入し、事務負担を軽減するとともに、雇用の変更及び労働条件通知書の整理を行った。

①システム導入、業務委託による各種事務効率化

定例支払事務、物品等調達事務、おやつ代徴収業務をシステム導入、業務委託を行い業務の効率を図った。詳細はP89「(6)事務効率化の推進」参照

②放課後児童支援員の雇用替え

児童館事務の一元化に向けて、令和6年4月に先行実施した灘・中央・兵庫(3区)に続き、東灘・北・長田・須磨・垂水・西(6区)において、区社協で雇用していた放課後児童支援員を市社協雇用に変更するため、施設長への説明会や職員への意向調査を経て、雇用変更に伴う事務手続きを行った。(令和6年4月に先行実施した灘・中央・兵庫区を含め、雇用替えを行った職員は534名)

③労働条件通知書交付手順の整理

法人統合に伴い、600名近くの労働条件通知書を交付するにあたり、労働条件通知書の記載内容の見直し、手順の整理を行うことで、確実に効率的な交付事務が可能となった。

地域福祉施設の管理運営

市民の福祉活動推進拠点である総合福祉センター、こうべ市民福祉交流センターの管理運営を行った。

(1) 総合福祉センターの管理運営

①貸会議室利用状況

室 名	第 1 会議室	第 2 会議室	第 3 会議室	第 4 会議室	第 5 会議室	合 計
利用件数	654 件	542 件	663 件	622 件	603 件	3,084 件

②社会福祉研修室利用状況

室 名	第 1 研修室	第 2 研修室	第 3 研修室	第 4 研修室	第 5 研修室	合 計
利用件数	480 件	532 件	377 件	439 件	477 件	2,305 件

③障がい者福祉センター会議室等利用状況

室 名	A 会議室	B 会議室	C 会議室	体育室	合 計
利用件数	519 件	497 件	656 件	534 件	2,206 件

④障がい者福祉センター駐車場利用状況

利用台数	5,022 台
------	---------

③、④は障害者福祉センターの委託業務

(2) こうべ市民福祉交流センターの管理運営

貸室利用状況

室 名	件 数	室 名	件 数
201 教室	444 件	401 研修室	—
301 教室	325 件	402 研修室	—
302 教室	322 件	403 研修室	—
303 教室	265 件	501 研修室	454 件
304 教室	—	502 研修室	441 件
介護実習室	131 件	503 研修室	360 件
調理実習室	130 件	合 計	2,872 件

※304・401・403 教室は貸室利用なし

神戸市介護サービス協会事務局の受託

(1) 協会の概要

介護保険制度に関係する団体が連携し、介護保険に関係する情報共有や各分野に共通する課題検討、サービスの質の向上への取り組みを行った。

(2) 構成団体（7 団体）

神戸市老人福祉施設連盟、神戸市介護老人保健施設協会、神戸市民間病院協会、神戸市シルバーサービス事業者連絡会、神戸市医師会、神戸市歯科医師会、神戸市薬剤師会

(3) 協力団体（4 団体）

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会神戸ブロック、神戸市ケアマネジャー連絡会、神戸市リハ職種地域支援協議会、兵庫県栄養士会

(4) 主な事業

介護現場における多職種連携の課題を検討するとともに、オンラインを活用した研修会を開催するなど、介護人材育成に取り組んだ。

コロナ禍で開催を延期していた協会設立 20 周年記念行事として、広く当会を知ってもらうとともに、介護に関する啓発を目的に記念講演会を開催した。

①総会、理事会、運営委員会等開催

総会（1 回）、理事会（2 回）、運営委員会（5 回）、神戸市との意見交換会（2 回）

②部会開催

居宅介護支援サービス部会（6 回）、在宅サービス部会（6 回）、施設サービス部会（6 回）

③協会設立 20 周年記念講演会の開催（1 回）

日時：令和 6 年 11 月 21 日（木） 午後 2 時～4 時

会場：新長田ピフレホール

参加者：244 名

内容：介護現場スタッフの発表「介護の仕事に就いてみて・・・」

記念講演「介護は突然やってくる、その日の為に」

講師：タレント・淑徳大学客員教授 新田 恵利 氏

④研修会の実施

全体研修会（3 回・オンライン開催/対面開催）、

サービス提供責任者研修会（3 日コース×1 回）、オンラインセミナーシリーズ（3 回シリーズ×8 回）

⑤協会事業の広報

ホームページの運営、公式 LINE アカウント、メールマガジン

⑥神戸市高齢者介護士認定事業の実施

神戸市高齢者介護士委員会（3 回）、小委員会（2 回）、実務者会（4 回）

神戸市高齢者介護士講習会（4 回）

神戸市高齢者介護士認定試験（1 回）

ミッション3 つながり、支え合う

地域福祉活動の推進強化

(1) 区社会福祉協議会との連携・協働

区社協との連携のもとで、ふれあいのまちづくり協議会をはじめとした地域団体や専門機関、区行政と円滑に連携・協働を進め、小地域単位で住民同士が支え合える仕組みづくりに取り組んだ。

各区社協においては、各ワーカーや事業の担当者間で、情報や課題を共有し、各々の視点を活かした連携・協働を行い、複雑・多様化した課題に対し、区社協の総合力で事業を展開した。

①法人合併に向けた取り組み

新しい組織体制に向けた、円滑な事業運営のあり方について、検討・協議を重ねた。

②地域福祉部会の運営

区社協代表者等による地域福祉部会を書面にて開催し、各区の特色に応じて実施している事業等の情報共有を行った。

③区社協の組織体制に合わせた連絡会等の開催

区社協との連携を深め、市社協・区社協が行う地域福祉事業を円滑に進めるため、神戸市も含めた連絡会を開催し、情報交換と課題の協議を行った。

④成年後見制度の利用手続き相談室の運営

相談室の確保や相談者の受付け、広報など、区社協の運営協力を得て「成年後見制度の利用手続き相談室」を市内全区で開設し、住民に身近な窓口での相談機能の充実を図った。

⑤地域福祉推進を目的とする各区社協事業への助成

「地域福祉推進基金」を活用し、「だれもが住みなれた地域で安心して心豊かに暮らせるまちづくり」を目標に、地域住民やボランティア等との協働のもとで、区社協が実施する地域福祉の推進を目的とした事業に助成を行った。(9区計: 11,984,679円)

【地域福祉推進基金事業 各区社協助成事業一覧】

区	事業名	助成額 (うち法人基盤強化分)
東灘	なかよしキッズ、地域の心と心を結ぶ「おむすびカレンダー事業」、ひがしなだ地域福祉フォーラム、おしゃべりほっとタイム、終活セミナー	2,095,746 円 (1,000,000 円)
灘	ケアリーバー支援事業、ベビーキャラバン、児童館専門相談、なだふくしフェスタ	983,333 円
中央	おしゃべりほっとタイム、発達がゆっくりな児童及び保護者への対応支援強化事業	1,082,624 円 (465,322 円)
兵庫	つどいの場活性化事業、やさしさと思いやり教育推進事業、地域貢献的居場所づくり、多様な「かよい」の場運営事業	2,888,442 円 (1,467,667 円)
北	ひきこもり・不登校の人たちの居場所づくり事業、地域子育てパワーアップ事業、支え合いのまちづくり事業	526,445 円 (0 円)
長田	地域活動への講師派遣助成事業、障がい福祉サービス事業所等の連携強化事業、地域共生事業(日本語教室によるコミュニケーションスキルの向上事業)	879,866 円
須磨	須磨区を盛り上げる抱いた区政グループ育成事業、マッサージンスクール、乳幼児支援事業、区社協広報活動及び ICT 環境整備	1,383,223 円 (520,640 円)
垂水	赤ちゃん訪問活動支援、子育てサークルへの講師等派遣事業、ひきこもり家族への支援事業、元気なうちの税務相談	645,000 円
西	地域がイキイキ！つながり活性化事業、「第 26 回西区健康福祉フェア&はっぴ〜カーニバル 16th」、神戸市西区授産施設製品等販売促進支援事業	1,500,000 円

⑥区社協実施事業への支援

地域における住民相互の助け合いや交流を促進するため、住民主体のコミュニティづくりや、福祉活動を行うボランティアの育成を進めるなど、区社協で実施する事業や、区ボランティアセンターの運営などに対して助成した。

⑦区社協役員協議会の開催

合併後“あらたなこうべの社協”として、市・区社会福祉協議会が今後より一層、地域福祉活動や専門相談機関、行政施策等と重層的な支援体制を構築し、新たな地域福祉課題に対応していくネットワーク構築を進めていくための共通認識を深めた。

日 時：令和 7 年 2 月 7 日（金）15 時 30 分～

場 所：マーカススクエア神戸

内 容：「包括的な支援体制の構築に向けて」

講 師：日本福祉大学 学長 原田 正樹氏

参加者：76 名

(2) 地域支え合い活動推進事業の推進

サービス提供主体の多様化と地域資源の充実に向けた「生活支援体制整備事業」を全市で実施した。

①生活支援コーディネーターの配置

区社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域の関係団体のネットワークによる課題や資源の情報共有、地域に不足するサービスの立ち上げを支援した。

生活支援コーディネーター連絡会を月1回開催し、地域支え合い活動推進事業の進捗状況や地域福祉活動推進のための取り組みに関する情報交換と課題の協議等を行った。今年度は、新任生活支援コーディネーターを対象にオリエンテーションを実施。全体に向けたスキルアップ研修開催し、第1層生活支援コーディネーターの役割や地域への関わりの視点を学び、資源開発について社協の強みを活かした実施に繋げる一助とした。

②協議体機能を有する会議等の運営

協議体機能を有する会議等を区社協の生活支援コーディネーターが中心になって、高齢者の生活支援に関わる住民組織・事業者・NPO・社会福祉法人・行政等の地域の関係団体のネットワークづくりと新たな資源開発の場として運営し、高齢者の生活ニーズの現状と地域資源の情報等を共有し、地域で不足するサービスの立ち上げ支援、担い手不足等の課題に対して共通認識を持った。(全市開催実績 8回)

③つどいの場支援事業の推進

地域住民などによって自主的に運営され、身近で高齢者のだれもが自由に参加できる、「つどいの場」を充実させるため、区社協の生活支援コーディネーターを中心に、運営に関する助言や情報提供、活動について現状・課題等の把握を行い、つどいの場が継続するよう支援を行った。(申請 263 グループ)

(3) 地域資源情報(つどいの場・通いの場)の集約

地域住民やボランティアによるつどいの場や通いの場の活動等の地域資源を区社協・あんしんすこやかセンターと連携しながら全市的に把握し、一元管理するための集約・更新を継続的に行った。(全市合計：2,001箇所<R7.3.31最新>)

(4) 重層的な見守りネットワーク構築の推進

ひとり暮らしの高齢者等を対象に見守り活動、閉じこもり防止活動や日常生活支援活動について、きめ細かな支援を行うとともに、関係者の協力のもと全市的な支え合い活動を支援した。主な取り組みとして、各区における民生委員・児童委員の協力による「高齢者見守り調査」や見守り活動の支援、また、ボランティアによる友愛訪問活動(全市：1,087グループ)やふれあい給食活動(全市：228グループ)、テレホンサポート事業(全市ボランティア数：75名)を実施し、住民による見守り活動を支援した。

ふれあい給食会活動においても会食形式での活動が推奨されるようになった。コロナ禍においての配食などの代替的な活動から会場での会食形式への再開に向けた支援をした。

区社協が本事業の調整及び各あんしんすこやかセンターへの支援など事業推進の中心的な役割を担っており、区社協を支援するための推進方策の検討や活動費助成・事業費の補助を行った。

神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

(1) 事業内容

神戸市民生委員児童委員協議会の運営を担い、区民児協の連絡調整、民生委員・児童委員の資質向上のための研修会等の開催、関係機関との連絡調整、全国会議等への参加調整、表彰及び慶弔に関する事務並びに、互助共済事業を行い、会員に対して共済給付を行った。

①常任理事会（民生委員児童委員部会）等の開催

毎月1回 第3木曜日開催（11回）、理事会2回

②全国会議等への参加調整

指定都市社協・民児連連絡協議会（1名）

近畿ブロック府県・指定都市民生委員・児童委員関係事業会議（9名）

全国民生委員児童委員大会（9名）

全国児童委員・主任児童委員活動研修会（3名）

民生委員・児童委員リーダー研修会（2名）

全国民生委員指導者研修会（2名）

③表彰及び慶弔に関する事務

全国民生委員児童委員連合会会長表彰（2団体および221名）

全国社会福祉協議会会長表彰（13名）

④各種民生委員児童委員研修会等の開催と参加調整

物故民生委員・児童委員顕彰碑合祀祭、社会福祉大会、地区民生委員児童委員協議会会長研修会等

⑤民生委員共済給付金の交付

【市民児協共済】

区分	死亡	配偶者死亡	傷病	配偶者傷病	災害		退任				旧会員死亡			合計
					全焼・全壊・流出	半焼・半壊	10年以上	6年以上10年未満	3年以上6年未満	3年未満	15年以上	10年以上	3年以上	
件数	4	14	41	6	0	0	9	9	4	6	13	2	1	109
金額 (千円)	120	140	287	30	0	0	90	72	24	30	260	20	5	1,078

⑥DXの推進

地区民児協会長およびモデル区の全民生委員・児童委員にタブレット端末を配付しコミュニケーションツールを活用して活動記録の報告など、民生委員活動のDXを進め、業務効率化、負担軽減を図る支援を行った。

(2) 民生委員・児童委員活動の推進

社会福祉協議会として民生委員・児童委員活動を推進するため以下の事業を実施した。

①地区民生委員児童委員協議会会長研修会

②民生委員互助事業の実施

民生委員活動の振興をはかることを目的に、全国社会福祉協議会の実施する民生委員互助事業について、弔慰、見舞・退任慰労等に関する給付事務を行った。

【全社協民生委員互助事業】

区分	公務死亡	一般死亡	配偶者死亡	公務傷害疾病	一般疾病		災害		退任			合計
					2 カ 月 以 上	2 カ 月 未 満	全 壊 ・ 大 規 模 半 壊	半 壊	15 年 以 上	9 年 以 上 15 年 未 満	3 年 以 上 9 年 未 満	
件数	0	4	14	11	21	11	0	0	6	3	13	83
金額 (千円)	0	120	140	350	210	88	0	0	42	15	39	1,004

福祉団体、NPO やボランティアグループへの助成

(1) 善意銀行の運営

金銭、物品を預託として善意銀行で受け入れ、福祉活動を行っている団体・施設に払い出しを行った。

①金銭預託・払出実績

預託 件数	預託金額	払出先	払出 件数	払出金額
38 件	1,412,431 円	児童福祉の事業を行う団体	5 件	923,476 円
		障害者福祉の事業を行う団体	3 件	180,000 円
		福祉一般団体等	2 件	110,000 円
		児童福祉施設等入所児童へ就学助成	2 件	600,000 円

②物品預託・払出実績

預託物品	預託数量	払出先
車椅子	28 台	高齢者福祉関連施設 (20 台)
		地域福祉関連団体 (8 台)
食品、日用品	5 団体	地域福祉関連団体、 児童福祉関連施設
有価証券 (観戦チケット・切手 等)	3 団体	児童福祉関連施設、障害児施設等

災害支援の取り組み

(1) 令和 6 年能登半島地震災害救援募金

令和 6 年 1 月 1 日に発生した、能登半島を震源とする地震により被災した方々を支援するための災害救援募金を実施した。

- ① 実施期間 : 令和 6 年 1 月 5 日(金)～令和 7 年 11 月 28 日(金)
- ② 寄付件数 : 1,030 件
寄付額 : 68,496,223 円 (令和 7 年 3 月 31 日現在)
- ③ 使 途 : 日本赤十字社が実施する「令和 6 年能登半島地震災害義援金」へ寄付。
- ④ 第 2 次送金 (令和 6 年 6 月 11 日) 25,350,540 円
第 3 次送金 (令和 7 年 3 月 27 日) 10,490,100 円
※第 1 次送金 (令和 6 年 2 月 28 日) 30,947,244 円
送金計 66,787,884 円

(2) 災害支援図上訓練の開催

災害が発生したときの状況を模擬的に体験しながら、迅速かつ適切な対応能力を身につけるとともに、団体間の顔の見える関係を作ることによって連携の可能性を考えるきっかけとすることを目的として、災害時協定を結んでいる団体を含めた訓練を実施した。

日時：令和 7 年 1 月 30 日（木）14:00～17:00

(3) 災害時の活動資機材整備

中央共同募金会の 2024 年度「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク」助成を活用して資機材を購入し、災害時に迅速に災害ボランティアセンターの設置につなげられるよう整備した。

民間社会福祉施設の振興

施設部会において、社会福祉法の改正、社会福祉法人の公益的活動等、新たな国の方針に対応した社会福祉法人・社会福祉施設運営の課題について協議を行った。

また、民間社会福祉施設の職員処遇の向上と経営安定を図るため、退職手当共済及び福利厚生事業を実施するとともに、施設行事・運営の支援を行った。

(1) 施設部会の開催

神戸市への予算要望などを通じて民間社会福祉施設の諸課題に取り組んだ。

(2) 人材確保・定着のための支援

① 「民間社会福祉施設職員退職手当共済事業」の実施

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を健全な財政状況を維持（責任準備金に対する積立水準は110.3%）しながら運営した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
年度内加入者	10,726 人	10,831 人
退職者数	1,330 人	1,507 人
給付金	700,702,022 円	768,718,707 円

② 「民間社会福祉事業職員福利厚生事業」の実施

国内研修費を各種別施設連盟に助成し、社会福祉士・介護福祉士等の国家試験合格者

に祝金を給付し、勤続 15 年の職員に永年勤続記念品を贈呈した。

また、家庭用常備薬や自動車保険・火災保険等の集団扱制度の斡旋を実施した。

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度
国内研修費	750,000 円	680,000 円
合格祝金	471,000 円(157 人)	477,000 円(159 人)
永年勤続記念品	993,960 円(123 件)	1,153,900 円(140 件)
合 計	2,214,960 円	2,310,900 円

(3) 民間社会福祉施設職員激励会

施設に勤務する職員の日頃の労をねぎらい勤続 5 年の市長感謝状を贈呈するための激励会を開催した。

実施日：令和 6 年 7 月 30 日(火)

会 場：神戸メリケンパークオリエンタルホテル

参加者：174 人

(4) 施設運営助成の実施

各連盟実行事・研修等への助成 9 件

(5) 新春福祉関係者のつどい

市内の福祉施設や福祉団体の関係者が一堂に会し交流と親睦を深めた。

実施日：令和 7 年 1 月 29 日(水)

会 場：神戸ポートピアホテル

参加者：325 人

多様な福祉活動参加の推進

(1) 社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動支援

各区の社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の活動の活性化を図るため、各社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）の事務局（区社協）で、内容や進め方、方向性等について共有・検討した。

(2) 神戸市社会福祉大会の開催

市民の福祉推進の決意を新たにするとともに、社会福祉事業の協力者、功労者の功績を顕彰する社会福祉大会について、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から長らく大会の開催を中止し表彰推薦のみ行ってきたが、3 年ぶりに開催した。

理事長感謝状受賞者	社会福祉事業協力者	金品の寄贈	12 人、21 団体
		奉仕活動	27 人、56 団体
	永年勤続功労者	253 人	

(3) 共同募金運動・歳末たすけあい募金運動の推進

市内 9 区が行う「共同募金運動」及び「歳末たすけあい募金運動」の活動推進支援を通じて福祉活動の基盤づくりに努めた。

①共同募金活動（期間 令和 6 年 10 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）

※実績額のうち期間拡大分（令和 7 年 1 月～3 月）

②歳末たすけあい募金（期間 令和 6 年 12 月 1 日～12 月 31 日）

	①共同募金活動 (※期間拡大期間実績額)		②歳末たすけあい募金	
	期間 令和 6 年 10 月 1 日～令和 6 年 12 月 31 日 (※令和 7 年 1 月～令和 7 年 3 月)		期間 令和 6 年 12 月 1 日～令和 6 年 12 月 31 日	
区別	目標額	※実績額	目標額	実績額
東灘	5,600,000 円	5,147,542 円 (未実施)	5,400,000 円	5,517,160 円
灘	6,474,000 円	6,296,636 円 (414,143 円)	1,900,000 円	1,841,989 円
中央	7,398,000 円	7,821,468 円 (1,461,039 円)	2,700,000 円	3,352,245 円
兵庫	6,500,000 円	6,102,028 円 (632,030 円)	1,620,000 円	1,414,989 円
北	6,898,000 円	6,316,971 円 (317,775 円)	4,600,000 円	3,809,371 円
長田	4,116,000 円	4,082,095 円 (12,736 円)	2,300,000 円	2,060,522 円
須磨	4,749,000 円	4,829,239 円 (57,398 円)	1,181,000 円	1,032,640 円
垂水	4,214,000 円	4,265,085 円 (879,591 円)	2,322,000 円	2,322,000 円
西	4,880,000 円	5,916,002 円 (1,036,721 円)	2,000,000 円	2,000,000 円
合計	50,829,000 円	50,777,066 円 (4,811,433 円)	24,023,000 円	23,350,916 円

(4) 地域の子どもの福祉のための助成事業の調整

兵庫県共同募金会が行う「地域の子どもの福祉のための助成事業」について、神戸市域の助成事業に関する広報、申請受付、助成決定審査、助成団体からの報告事務を行った。

※「地域の子どもの福祉のための助成事業」とは 令和元年度から企業より社会貢献活動として中央共同募金会を通じ、兵庫県共同募金会に「貧困や虐待等に苦しむ子どもの支援」を目的に寄付をいただき「地域の子どもの福祉のための助成事業」として、神戸市域で当該活動を行う施設や団体へ配分し、活用いただいている。

【令和 6 年度配分実績】58 施設・団体 28,170,000 円

活動を支える体制の強化

(1) 理事会・評議員会等の運営

会議名称	期 日	主 な 議 題
理事会	6 月 13 日	定款の変更、役員及び評議員選出規程の変更、評議員選任・解任委員の招集と評議員選任候補者の推薦、令和 5 年度事業報告及び決算、令和 6 年度定時評議員会の招集と上程議案、重要事項の報告
	11 月 5 日 決議省略	評議員選任解任委員会の招集と評議員選任候補者の推薦、第 2 回評議員会の招集と上程議案（決議省略）
	12 月 11 日	役員賠償保険契約の締結、常任委員会規程の制定、令和 6 年度第 3 回評議委員会の招集と上程議案、職務執行状況の報告、重要事項の報告
	3 月 19 日	評議員選任・解任委員会の招集と評議員候補者の推薦、会計規程の改定、専決規程の改定、令和 6 年度補正予算、令和 7 年度事業計画及び予算、職務執行状況の報告、重要事項の報告
	3 月 24 日 決議省略	専務理事の選定、区担当業務執行理事の選定
評議員会	6 月 28 日	定款の変更、令和 5 年度事業報告及び決算の承認、重要事項の報告
	11 月 13 日 決議省略	理事の選任
	3 月 19 日	理事の選任、令和 6 年度補正予算の承認、令和 7 年度事業計画及び予算の承認、重要事項の報告
監事監査	6 月 4 日	令和 5 年度事業報告・決算に関する監査
	1 月 23 日	会計監査人との意見交換
評議員選任・解任委員会	6 月 14 日	評議員の選任について
	11 月 8 日	評議員の選任について
	3 月 31 日	評議員の選任について

(2) 部会・委員会の開催

会議名称	期 日	主 な 議 題
民生委員児童委員部会	11 回開催	民生委員・児童委員による地域福祉活動の推進
地域福祉部会	書面決議	R7 神戸市社会福祉協議会事業計画区社協助成申請の審議、地域福祉推進基金事業予算など
児童福祉部会	5 月 31 日	R5 事業報告・決算

	3 月 5 日	R7 児童福祉基金事業計画・予算、R7 助成申請の審議など
障害者福祉部会	5 月 30 日	R5 事業報告・決算
	3 月 10 日	R7 障害者福祉基金事業計画・予算、R7 助成申請の審議など
施設部会	5 月 28 日	R5 事業報告、R7 年度神戸市予算に対する予算要望、第 72 回民間社会福祉施設職員激励会について
	8 月 27 日	第 72 回民間社会福祉施設職員激励会振り返り・報告、令和 7 年度神戸市予算に対する要望集会
	12 月 4 日	大都市社会福祉施設協議会（北九州市大会）について、第 73 回民間社会福祉施設職員激励会について、第 31 回新春福祉関係者のつどいについて
	2 月 13 日	令和 7 年度神戸市予算に対する要望 回答集会
	3 月 4 日	R6 施設部会事業報告、R7 事業計画、第 73 回民間社会福祉施設職員激励会について、第 31 回新春福祉関係者のつどい決算見込、R7 年度神戸市予算に対する予算要望振り返り
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済・福利厚生事業運営委員会	5 月 28 日	R5 運用実績、R5 決算報告、資産運用検討委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産抛出
	8 月 27 日	四半期運用実績、資産運用検討委員会報告、R5 財政決算報告
	12 月 4 日	四半期運用実績、資産運用検討委員会報告、財政再計算、加入法人事業実績報告、信託財産抛出
	3 月 4 日	四半期運用実績、資産運用検討委員会報告、R6 実施状況及び決算見込、R7 事業計画・予算
神戸市民間社会福祉施設職員退職手当共済資産運用検討委員会	5 月 13 日	R5 運用実績、運営委員会報告、加入法人事業実績報告、信託財産抛出
	7 月 29 日	運営委員会報告、四半期運用実績、R5 財政決算報告
	11 月 11 日	運営委員会報告、四半期運用実績、財政再計算、加入法人事業実績報告、信託財産抛出
	2 月 6 日	運営委員会報告、四半期運用実績、R7 事業計画、受託金融機関の評価

会議名称	期 日	主 な 議 題
市民福祉大学カリキュラム検討委員会	1 月 20 日	R6 事業実施状況報告、R7 事業計画

社会福祉施設従事者研修部 会		
市民福祉大学カリキュラム 検討委員会	2月17日	R6 事業実施状況報告、R7 事業計画
こうべ安心サポート委員会	7月5日	専門部会の活動報告、安心サポートセンター・成年後見 支援センターの活動状況報告など
こうべ安心サポート委員会 安心生活支援部会・成年後 見判定部会	12回開催	成年後見の市長申立てに関する助言
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会 監査委員会	6回開催	日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）に 関する審議・助言（契約締結審査会としても位置付け）
こうべ安心サポート委員会 権利擁護事業部会 監査委員会	6月17日	日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）・ 法人後見事業の利用者の財産管理に関する監査
こうべ安心サポート委員会 市民後見部会	6回開催	成年後見支援センターの運営、 市民後見人養成研修等に関する助言
こべっこランド運営委員会	7月3日	R5 年度事業報告、R6 年度事業計画
こべっこランド療育指導部 会	7月12日	R5 年度事業報告、R6 年度事業計画、 療育指導部会の名称・要綱の改訂
児童館 運営委員会	6月～7月	R5 年度事業報告、R6 年度事業計画
こうべ障害者音楽フェア 実行委員会	7月4日	R5 決算書、R6 補正予算及び実施計画、出演者の選定
	3月10日	R7 実施計画、R7 予算書
こうべ障がい者芸術フェス タ実行委員会	7月4日	R5 決算書、R6 予算書及び実施計画
	3月10日	R7 実施計画、R7 予算書
生駒温子児童福祉事業助成 審査委員会	2月26日	R7 公募助成、申請審議
ボランティア情報センター 運営委員会	6月4日	R5 ボランティア情報センター事業報告、R5 ボランティ ア基金事業決算報告
	3月3日	R7 ボランティア情報センター関連事業計画、R7 当運営 委員会の今後について、 R7 ボランティア基金収支予算

(3) 市・区社協法人合併および市区社協体制あり方検討

市・区社協が連携して地域生活課題への対応を始め地域福祉活動を一層推進すること、法人運営規律の強化を図ること、効率的な事業運営や人が育つ組織体制を構築することを目的に、令和4年度より「市・区社協組織体制あり方検討会」を開催してきた。そして、令和6年4月1日に合併契約書・基本合意書を締結した。

その後、神戸市への法人合併の認可及び定款変更の申請をし、市からの認可を経て、令和7年4月1日付の法人合併登記の手続き準備を行った。

会議名称	期 日	主 な 内 容
第 6 回 市・区社協組織体制あり方検討会	8 月 6 日	・ 常任委員会規程(市社協)並びに常任委員会細則モデル案(区社協)の提示について ・ 区社協と区役所との連携について ・ 「市・区社協組織体制あり方検討会」と「地域福祉部会」の整理について
第 7 回 市・区社協組織体制あり方検討会	11 月 8 日	常任委員会規程の修正と同細則モデル案についての確定。 その他報告事項として整理・確定した事項 ・ 区社協・市社協における令和 7 年度事業計画及び予算書のモデル提示 ・ 児童館運営事務の一元化準備の進捗状況

【参考】

①合併後の市社協の体制

市社協の職員数の変化

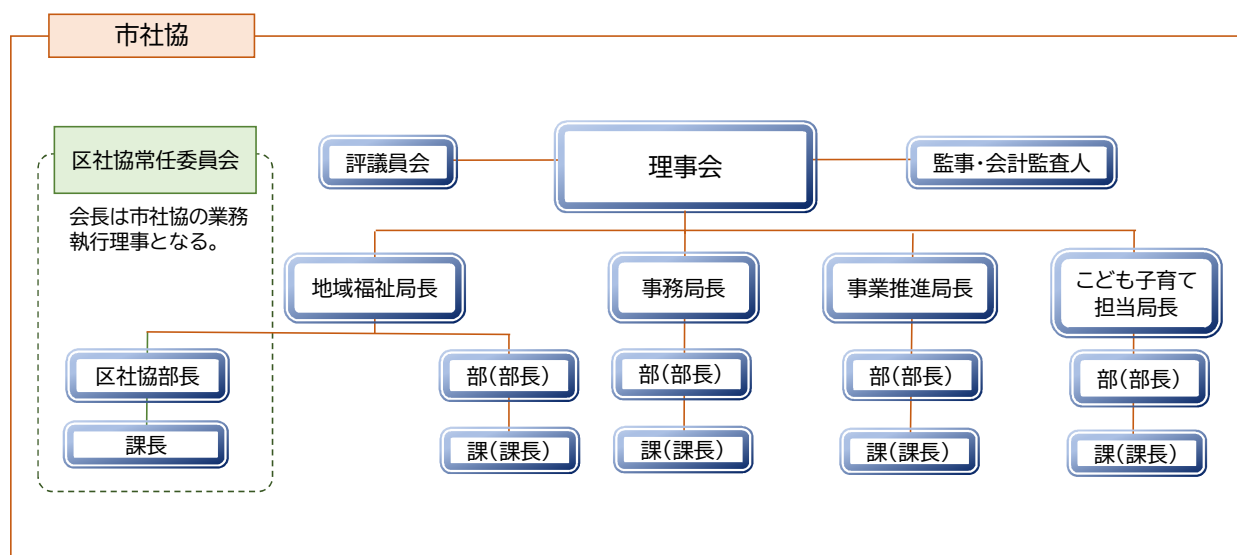
合併前（令和 7 年 3 月 31 日時点） 779 名

合併後（令和 7 年 4 月 1 日時点） 1,122 名（市社協 969 名、区社協配置 153 名）

※区社協から臨時・パート職員が市社協へ雇用変更

（児童館 369 名、区社協事務局 43 名）

②合併後の組織体制



(4) 新しい時代に適応した人材の育成

①職員の採用

定期採用試験（春・秋募集）において、応募者の当会への理解を深めることを目的とした採用説明会を実施し、応募者 104 名（春 33 名、秋 71 名）から総合職 4 名（春 2 名、秋 2 名）を採用した。

また、本会において一定の経験を有する者で、育児・介護、配偶者の転勤等やむを

得ない事情により離職した職員を即戦力職員として再び採用する「キャリアリターン制度」を実施した。

②職員の育成

ア．人事評価制度の実施

職員がその職務を遂行するにあたり発揮した能力や挙げた業績を公正に評価し、人事管理を行うことにより、職務成果の向上につなげることを目的に人事評価制度を実施した。この人事評価結果を給与（賞与）に反映することとし、令和6年度に試行実施を行った（7年度は管理職、担当者等は8年度に適用する）。また、人事評価調整会議を設置し、評価の相対化、不服申出の対応を行った。

イ．階層別研修

新規採用職員研修

新任職員研修（兵庫県社協主催研修の受講）

2年目職員研修（兵庫県社協主催：「新任職員ステップアップ研修」の受講）

3年目職員研修（兵庫県社協主催：「コミュニケーション実践研修」の受講）

3級昇格職員研修（神戸市主催：「3級昇格職員研修」の受講）

7～9年目職員研修（兵庫県社協主催：「OJTリーダー養成研修（基礎編・実践編）」の受講）

課長昇任時研修（神戸市主催：係長昇任時研修の受講、

兵庫県社協主催：「新任管理職研修」の受講）

部長昇任時研修（神戸市主催：「課長昇任時研修」の受講）

部長・課長級職員研修（兵庫県社協主催：「管理職のためのマネジメント基礎研修」、「管理職のためのマネジメント実践研修」、「労務管理研修」の受講）

新任局長研修（兵庫県社協主催研修の受講）

ウ．研修の解促進、受講機会の確保の取り組み

当会で実施した研修の録画映像について、職員がいつでも視聴できるよう、社内のグループウェアに常時掲載した。

③適正な業務環境の整備、働き方改革の推進、コンプライアンスの徹底等

時間外労働や年次有給休暇の管理方法の整備などの働き方改革の推進とともに、事業展開の際の著作権・肖像権対策、個人情報保護などの研修を実施するなどコンプライアンスの徹底に努めた。

(5) 職員災害支援研修の実施

災害ボランティアセンターの運営や市外被災地への応援派遣に関するスキルアップを目的に、本会職員を対象とした階層別研修を実施した。

①第1回災害支援研修「初級」

内 容 動画研修「おしえてくぼた君！」（市社協YouTubeで公開中）

災害支援に係る基本的な内容を動画視聴によって研修（1回10～15分程度）

期 間 令和6年6月3日（月）～令和6年11月29日（金）

テーマ 第1回「令和4年度3月福島沖地震 今どうなってるの？」

第2回「支援金と義援金ってなに？」

第3回「コロナ禍のボランティアセンター」

- 第4回「災害準備金って？」
 第5回「地域支えあい活動センター」
 第6回「大学生が災害ボランティア？」
 第7回「きょうどうがた 災害ボランティアセンター」
 第8回「活動資機材」
 第9回「どうして社協が災害ボランティアセンター？」
 第10回「災害ボランティアセンターをITで省力化！」
 第11回「災害ケースマネジメント」

②災害支援研修「中級」

- 内 容 ケースワーク等、実地的な模擬研修
 会 場 こうべ市民福祉交流センター 201 教室
 日 時 ①令和6年6月12日（水）15：00～17：30
 ②令和6年7月1日（月）15：00～17：30
 ③令和6年8月28日（火）15：00～17：30
 ④令和6年9月20日（金）15：00～17：30
 ※①～④の内、1回受講

参 加 32 人

③災害支援研修「管理職」

- 内 容 災害救助法の法律や、補助金等のお金の流れなど、災害ボランティアセンターの円滑な設置・運営等について、オンデマンド配信にて学ぶ
 講 師 楠 聖伸 氏
 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
 地域福祉部 全国ボランティア・市民活動振興センター 副部長
 開催方法 YouTube による聴講形式
 日 時 令和6年6月3日（月）～令和6年11月29日（金）

(6) 事務効率化の推進

市・区社協の法人合併に伴い、法人運営と児童館管理運営業務が市社協に集約されることから、人事・給与・支払業務・業務報告等について、業務改善・効率化や事務の共通化、職員負担軽減を図るため、ICT導入やアウトソーシング等を進めた。

①システムの導入

職員増加への対応及び法人全体や児童館関係の業務改善として、各種システムを導入した。

	システム	内容及び効果	本格稼働
法人全体	労務管理システム —スマート HR	・入退社手続き、労働条件通知、年末調整、給与明細書発行など職員の各種申請手続きをペーパーレス化した。 ・情報管理をクラウド化（インターネットによる安全な運用）	令和6年4月
	請求書管理システム	・電子帳簿保存法・インボイス対応を行うた	市社協

	ートキウム	め導入 ・請求管理業務をペーパーレス化 ・支払業務全般について区社協から市社協へ事務移管して一元管理を行う。	令和6年4月 区社協 令和7年4月
	謝礼支払管理システム ーワークス DX	・各種委員・外部講師等への謝礼支払のペーパーレス化及びクラウド化 ・区社協から市社協へ事務移管して一元管理を行う。	令和6年4月
	マイナンバー収集システム ーオフィスステーション	・講師等職員以外のマイナンバーを収集するために導入。管理は謝金支払管理システムで行う。	令和6年4月
	各種業務改善アプリ 開発 ーキントーン	・助成金・謝礼等の支払のため、ネットバンキング及び会計システムに自動入力するための振込先入力を行う。 ・区社協ネットワーク等等の活動記録を共有するための情報管理。区社協から市社協へ事務移管して一元管理する。 ほか	令和6年4月
児童館	勤怠管理システム ージョブカン	・児童館職員の勤怠管理業務。紙ベースで行ってきた職員シフトの作成、勤務データ管理をペーパーレス化及びクラウド化 ・区社協から市社協へ事務移管して一元管理を行う。	令和6年4月
	通勤手当算定システム (Excel マクロ)	児童館職員の通勤手当を自動計算するシステム	令和5年8月
	物品等調達業務 ーアマゾンビジネス	・各児童館の物品等調達を単一のシステムで行う。 ・物品調達の集約による支払手続きの簡素化と内部統制の強化	令和6年12月
	おやつ代収納業務 ーロボットペイメント	・利用者からのおやつ代収納業務をシステム化 ・手続きのペーパーレス化、利用者の利便性向上と収納事務の効率化	令和6年12月

②業務委託

システム導入では対応しきれない業務については、民間事業者への業務委託を行った。

	業 務	内容及び効果	委託開始
児童館	施設修繕管理業務 ー日本管財(株)	・児童館の小修繕管理を事業者へ業務委託 ・修繕管理の事業者による一括対応	令和5年4月
	定例支払事務支払代行サービス	・通信費、水光熱費等児童館に共通する定例支払事務を市社協へ集約し、支払を事業者	令和6年11月

	—NTT ファイナンス (株)	業務委託 ・児童館ごと・費目ごとの請求書集約による 支払事務の効率化	
総務関係	社用車管理業務 —三菱オートリース (株)	社用車管理業務を外部委託するとともに、管 理マニュアルを法人全体で統一	令和7年3月
	給与計算・人事労務 業務	給与計算・人事労務など総務関連業務につい て、外部委託の導入準備	令和7年度中 (予定)

(7) ガバナンス・コンプライアンスの強化

市・区社協の合併を機に、市社協の法人運営にかかるガバナンス及びコンプライアンスをより一層強化した。

①セキュリティ対策

オンプレミス（自社保有・管理）で運用しているサーバーをクラウド化（業者のデータセンター利用）し、セキュリティを強化するとともに管理の負担軽減を図った。今後3年を目途に本部及び区社協等拠点間のネットワークシステムを統合する。

②コンプライアンス研修

個人情報保護や情報セキュリティなどの研修を実施し、職員のコンプライアンス意識を高めた。

③内部通報制度

外郭団体共通内部通報窓口である外部の弁護士法人に委託した。

④衛生管理審査会

職員の休職及び復職についての意思決定機関として衛生管理審査会を毎月開催した。

⑤人事顧問の配置

メンタルヘルス不調・能力不足職員の対応策として、公認心理師等の資格を有する人事顧問を配置し、対象職員本人のカウンセリングを行うとともに、所属長等上司に対する対象職員対応のアドバイスをを行った。

⑥合併に伴う区社協雇用の臨時・パート職員の給与制度統一化

令和7年度より区社協雇用の臨時・パート職員を市社協へ雇用変更することに伴い、各区で異なっていた人事給与制度、賃金水準を統一した。（2年間の経過措置あり）